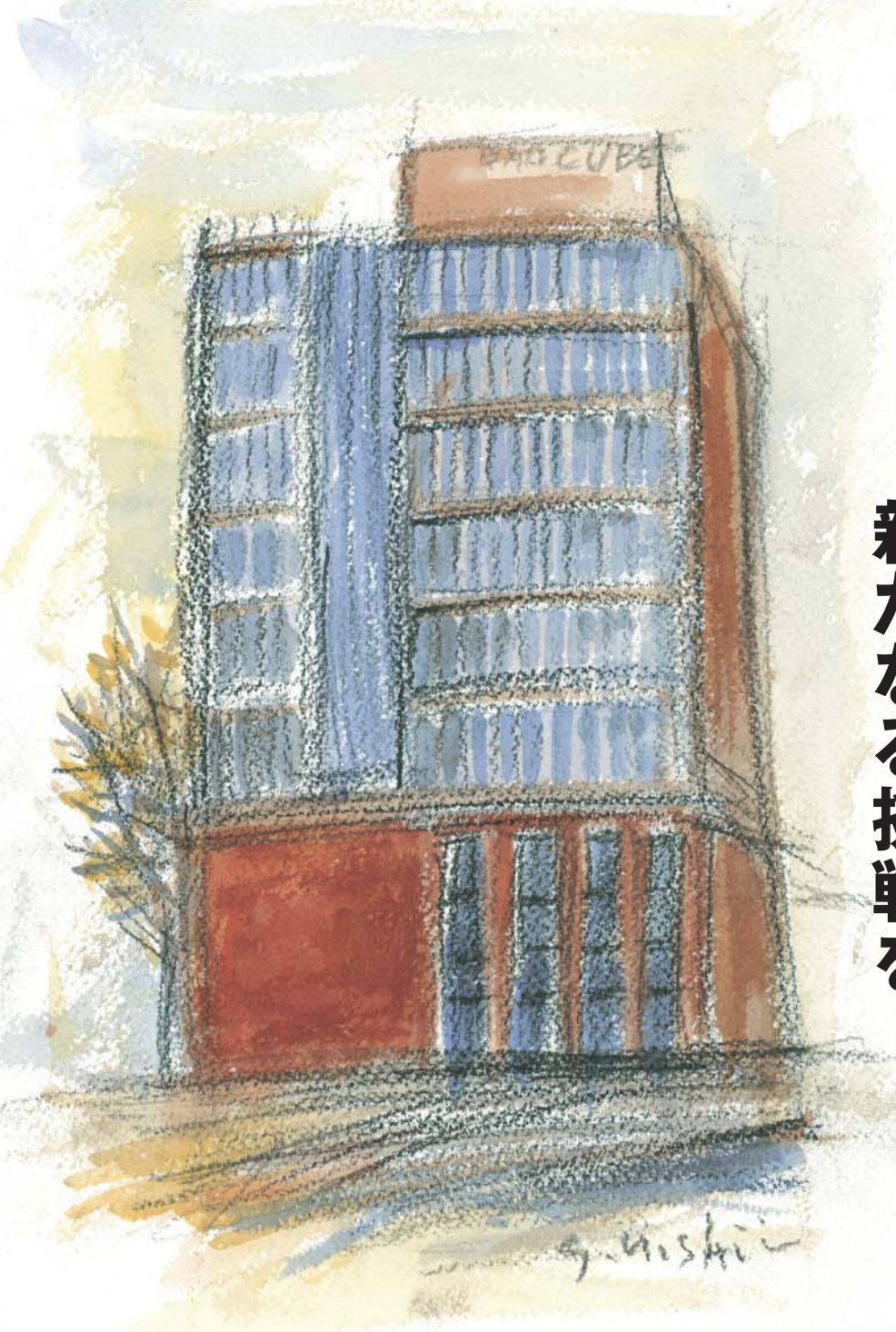


甲南Today

2009 MAY NO. 33

甲友のリレーションで、未来を紡ぐ



甲南動く、個性を力へ。
**今に生きる平生精神から、
 新たな挑戦を。**

甲南Today No.33

2009年5月1日発行

【発行】

甲南学園広報部

〒658-8501

神戸市東灘区岡本8丁目9-1

TEL 078-431-4341 (代)

ボランティアから得た経験^{たから}を胸に、
 世界を視野に入れる生粋の甲南ボーイ。



「真の教育とは、人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の才能を引き出すことである」と提唱した、甲南学園創立者平生軌三郎。そんな平生の想いを込め、今、甲南学園で光り輝いている学生・生徒をご紹介します。



マネジメント創造学部1年次

春名 成彦さん

今年、甲南大学に新しく誕生した「マネジメント創造学部(CUBE)」。
 3月に甲南高等学校を卒業した春名さんは、その第1期生となった。

甲南中・高を卒業し、今年甲南大学の新1年生となる春名さんは、NPO法人「AWPS(世界平和協会)」の学生スタッフとして、フィリピンで貧困に苦しむストリートチルドレンを支援するボランティア活動をしている。フィリピンに行った時、「三集積所で生活をする子どもたちの姿にショックを受けました」。しかし、春名さんはここでひとつの大きな経験をする。「貧しくても笑っている彼らの顔が印象的でした。彼らにとっては、「貧困」不幸ではないし、差別的に見られることを嫌がるんです。境遇に負けずに力強く生きる彼らの姿を見て、ボランティアをする僕の方が、ギフト(贈り物)をもらった気がしました」。このときから、春名さんは、相手の目線に立つことを強く意識するようになったと語る。そのほかボランティアから学んだことは多い。「海外から見た日本や、世界における自分の役割」ということを考えるようになりました。また、「『ビッグ・イシュー』などの雑誌や新聞では、貧困問題やボランティアに関する記事を注意深く読んでいます」。

また、春名さんは、3月20日に甲南大学で開催されたAWPS主催の「カンランカンチャリティーコンサート」の実行委員会総務統括も務めた。「このコンサートは、単に寄付を募る目的だけではなく、多くの人にストリートチルドレンを知ってもらい、僕たちがもらった「ギフト」を伝えていくという役割もあるんです。大学生の人たちに交じって大きなイベントを運営する経験をさせてもらったことで、自信が付き、自分の意見が言えるようになりました」。

大学という新しい環境のなか、期待に胸を膨らませる春名さん。彼が選択したのは、新しい「マネジメント創造学部」の特別留学コース。「留学先のアメリカでもボランティア活動をするつもりです。他の人と違うことにどんなチャレンジしたいですね」すでに「世界」を視野に入れている春名さんが今後どのように個性を磨いていくのか。大いに期待できるといふだ。

※1991年にロンドンで、ホームレスの自立支援を目的に発行された情報誌。翻訳され世界で発売されている。

特定非営利活動法人
 世界平和支援協会(AWPS)
<http://www.awps.jp>



インターネットで甲南へ

<http://www.konan-u.ac.jp>

甲南Today

No.33 2009 MAY

岡本キャンパスの春



2 WHAT'S NEW KONAN 甲南学園創立90周年記念事業 平生鈇三郎日記の刊行にあたって

甲南動く、個性を力へ。

3 ①甲南の挑戦 今に生きる平生精神から、新たな挑戦を。

5 ②キャリア教育 最前線 社会を生き抜くために必要な力は、 自分で考え、自分で行動できること。

7 ③経営学部の新展開 経営学部教員スタッフ全員で取り組むスパイラルアップ。

8 新任教職員紹介／退任教員紹介

11 IT'S KONAN STYLE 今の音楽性に大きな影響を 与えてくれた甲南時代。

ヴァイオリニスト 山中 裕平氏

13 高・中TOPICS 心を成長させる〴〵本物に触れさせる〴〵海外遠征。 サッカー部が本場イギリスへ飛んだ！

14 フランス甲南学園トゥレーヌだより フランスを楽しみ、フランス人との 心の交流を育む地元クラブ

15 なるほど！甲南アカデミア 守備範囲は、人々の健康から 一流スポーツ選手の体づくりまで。 心優しきスポーツ医学博士。

スポーツ・健康科学教育研究センター講師 曾我部 晋哉

裏表紙 ONLY ONE 〴〵個性を力へ 〴〵 Vol.4

こちら甲南特搜部「拡大版」
みなさまから寄せられた疑問を徹底調査！

17 貴志康二が愛用していた ストラディヴァリウスは、 その後どうなったのでしょうか？

18 ギャラリー・パンセでは、 今後どのような企画が 予定されているのですか？

19 甲南学園はどのように 創立されたのですか？ 兄弟姉妹校の関係も教えてください。

21 甲南学園の 歴史と文化をつくった人々

22 オール甲南の集い2009

23 甲南フォーラム



【表紙の絵】西井 義晃 画
甲南大学西宮新キャンパス[CUBE]
西井 義晃さん プロフィール 1961年甲南大学経済学部卒業 元自由美術会員
西井義晃画伯の作品展が開催されます！
大阪高島屋 6階美術画廊 2009年8月26日(水)～9月1日(火)
右記のURLで作品集をご覧ください http://webgarou.net

甲南学園創立90周年記念事業

「平生鈇三郎日記」が 翻刻出版されます。

甲南学園では、1999年創立80周年にあたって、創立者である平生鈇三郎の日記(全187冊)の翻刻校合作業を本格的に開始しました。そして、10年後である本年、創立90周年を記念して、それらを17巻にまとめたものを順次刊行することとなりました。平生鈇三郎先生は、その日記において、大正2年から昭和20年にかけて激しく揺れ動いた日本における政治・経済・教育・社会などの状況を克明に描写しており、時代を再検証する貴重な資料となると同時に読み物としても興味深い内容となっています。今回出版する17巻は、1巻が700頁のB5版で販売する予定です。

平生日記翻刻・出版プロジェクトのリーダーである安西敏三法学部教授が、日記出版にあたってその思いを語ります。

平生鈇三郎日記の刊行にあたって

法学部教授・平生鈇三郎日記編集委員会委員長 安西 敏三

平生鈇三郎日記が甲南学園に所蔵されていることを知って25年になる。それは学長職を辞められ、自ら設立された総合研究所所長に就かれた杉原四郎教授の熱意によって平生日記の研究が始まった時であった。その時利用した日記は平生に縁ある方々の翻刻コピー版で、一見してその量の多さに驚き、一読してその内容の豊かさに驚いたことを今でも覚えている。家庭の問題から国際情勢に至るまで平生の見識が遺憾なく発揮されているのである。なぜ平生は他の有名人の日記に比べ、このような大部な日記を綴り続けたのだろうか。それにヒントを与えてくれたのが、平生が南米アルゼンチンのブエノスアイレスのアレマーネ病院の病床にあって半生を記したとされる自伝の記述である。「曾祖父は尤も緻密にして遠謀深慮の人なりしが、十一歳にして茶坊主として召出されたる時より、御用人の最高位に登るまで、日記を作り、其日記は、長持に満ち居り、余等兄弟姉妹が、習字用の双紙に使用したることは、今尚記憶に存す。かゝる貴重なる日記が、waste paperとして、喪失したる事は、惜しみても余あり」。

と、日記をつけ続けた平生が理解できる。曾祖父の日記は田中家再興の道のりはいうまでもなく、江戸期の政治社会を知る上でも極めて貴重な史料となっていたであろう。平生がwaste paper、すなわち紙くず化した日記を「惜しみても余りあり」と残念がるのも、もったものである。そして曾祖父にならうとして平生が日記をつける決意をしたことも一度ならずあったと思われる。今ある平生日記は大正二(一九一三年)十月七日から始まっている。しかしその一年後に「昨年十月七日決然日記を始め、茲に満一周年一日も怠らざりしを得しは真に満足といはざる可からず」との記述がある。平生が当初から日記をつけていなかったからこそ、そのような満足感を素直に述べたのである。

また病床の身で驚くほど微細に渡る半生を、いくら記憶力抜群とはいえ、事細かく記すことは到底考えられない。恐らく平生は断片的ではあるが以前から日記、そうでなくても備忘録のようなものをつけており、それらを利用して日記をつける以前の自らの半生を書き留めたと考えられる。今に残る「八七冊の日記帳はその自伝の続編ともいえる。そして平生が幾十年間継続した日記を中止する、とせず夫人に記させたのは終戦の年の昭和二十(一九四五年)十月十二日のことであった。実に八十年の天寿を全うする一ヶ月前のことである。曾祖父の日記喪失の無念さを抱いた平生である。自らの日記の公刊を前にして天上において朗らかに喜んで頂けるであらう。」



今に生きる 平生精神から、 新たななる挑戦を。

甲南大学長
高阪 薫

創立90周年、 平生の精神に今一度立ち返る。

2009年、わが甲南学園は創立90周年という節目の年を迎えます。これまでに甲南大学は、創立者平生鈆三郎先生の理念を体現する、社会に有為な人材を各界に輩出してきました。その偉大な卒業生に恥じない人間を育てていくこそ、昨年学長として就任した時から一貫した私の使命です。そのために、「協調と刷新」(Collaboration & Innovation)をモットーに、平生の建学の精神を今一度見つめ直

教養教育」を実施し、「幅広い職業人」を育成します。当然、産官学・地域・高大との教育研究の連携は、実績を踏まえて、今後もこれからも積極的に推進します。

オシャレな甲南の学生の品位向上をはかり、心や身体や生活の悩みをサポートする学生支援委員会が発足しました。また、全方位的な国際感覚を身につけていくために、「新しいパートナーシップ」と題して、従来の欧米だけでなく、アジア世界に視点を向けた国際シンポジウムや講演を開催しました。本年度は躍進著しいインド・中国を予定しています。

創立100周年にむけた 教育への取り組み。

加えて、学園創立90周年募金で推進する記念事業として、「平生総合教育センター」の設立準備とその実現をめざします。ここでは、平生の教育理念を生かした学士力向上のための「総合的教養教育」をめざすため、教育課程・カリキュラム編成・研究分野の企画を立案し、各学部と連携して、教育・研究での「甲南ブランド」を志向します。本年はまた、平生精神の真髄を示す『平生鈆三郎日記』(全十七巻)が順次刊行されます。さらに「いま、甲南大学を考える」と題して、創立90周年記念懸賞

し、一方で伝統だけに縛られることなく新たな挑戦を果敢に行っていきたいと考えています。

平生の掲げた「東洋一ノ大学(人物教育ヲ率先ノ創立)」、「世界に通用する人材の輩出」といった建学の理想や目標は、今も生きています。昨今大学生の学士力の向上が叫ばれています。甲南大学は平生の言う「学生第一主義」を標榜し、八学部こそつて大学の入口・中身・出口の教育・研究の指針と施策を明示し、建学精神を生かした教育の質向上をめざします。高大連携・接続を視野に入れ、学習意欲を喚起させ、教養と専門を融合した「総合的

論文を募集しています。甲南大学について、中・高大の学生からの建設的な提言を期待しています。

一人ひとり異なる天賦の才をどう練磨するかが、人間を育成することの本義であり、大学の役割がいかに変化しようと変わらない基本です。異なる才能が充分に発揮され、止揚されてこそ社会は発展します。平生が実践した共に働き助け合う「共働互助」の精神はまさにそれで、現代の社会や教育においてますます必要とされます。平生のこのヒューマニズムを21世紀に生かすことをめざし、甲南独自の教育として発信していくために、徳育を中心とした自校史教育も行います。これらは教職員が共通認識を持つて一体になって取り組む必要があります。そのため教職員の能力開発としてファカルティ・デベロップメント(FD)、スタッフ・デベロップメント(SD)を組織的・継続的により一層推進していきます。

この他にも、甲南大学では研究・教育の質の向上をめざす優れた取り組み(Good Practice)を選定して支援する「甲南平生GP」を設け、この実践を支援しています。こうした数々の施策を通じ、個性を生かして世界に通用する人物を育成するとともに、来るべき100周年に向けて甲南大学が飛翔するスタートの1年にしたいと考えています。

平成21年度大学役職者一覧		
役職名(所属)	氏名	
学長	高阪 薫	
副学長	(理工学部)	重松 利彦
副学長	(経営学部)	鶴身 潔
文学部長	(文学部)	大津 真作
理工学部長	(理工学部)	宮澤 敏文
経済学部長	(経済学部)	青木 浩治
法学部長	(法学部)	島田 茂
経営学部長	(経営学部)	長坂 悦敬
知能情報学部長	(知能情報学部)	中山 弘隆
マネジメント創造学部長	(マネジメント創造学部)	佐藤 治正
フロンティアサイエンス学部長	(フロンティアサイエンス学部)	杉本 直己
人文科学研究科長	(文学部)	中島 信夫
自然科学研究科長	(知能情報学部)	中易 秀敏
社会科学研究科長	(経済学部)	青木 浩治
フロンティアサイエンス研究科長	(フロンティアサイエンス学部)	杉本 直己
法科大学院長	(法科大学院)	渡辺 顕修
会計大学院長	(会計大学院)	河崎 照行
国際言語文化センター所長	(国際言語文化センター)	胡 金定
スポーツ・健康科学教育研究センター所長	(スポーツ・健康科学教育研究センター)	北岡 守
EBA高等教育研究所長	(EBA高等教育研究所)	渡邊 和俊
大学企画室長	(法科大学院)	石井 昇
教務部長	(経営学部)	馬場 大治
学生部長	(経済学部)	岡田 元浩
キャリアセンター所長	(法学部)	中井 伊都子
図書館長	(文学部)	谷口 文章
学長補佐	(文学部)	井野瀬 久美恵
学長補佐	(法科大学院)	石井 昇
広域副専攻センター所長	(知能情報学部)	森元 勤治
情報教育研究センター所長	(知能情報学部)	若谷 彰良
情報教育研究センター副所長	(文学部)	秋元 孝文
国際交流センター所長	(国際言語文化センター)	津田 信男
国際交流センター副所長	(経営学部)	杉田 俊明
フロンティア研究推進機構長	(経営学部)	Shrestha Manoj Lal
先端生命工学研究所長	(フロンティアサイエンス学部)	杉本 直己
カウンセリングセンター所長	(経済学部)	奥田 敬
人間科学研究所長	(文学部)	森 茂起
総合研究所長	(法学部)	安西 敏三
サイバーライブラリ所長	(文学部)	谷口 文章
教職教育センター所長	(文学部)	都染 直也
ビジネス・イノベーション研究所長	(経営学部)	中田 善啓
企業法務研究所長	(法科大学院)	根岸 哲
CUBE高等教育研究所長	(マネジメント創造学部)	佐藤 治正
学生相談室長	(経済学部)	奥田 敬
心理臨床カウンセリングルーム長	(文学部)	横山 博
スポーツ強化支援室長	(経営学部)	鶴身 潔

甲南平生国際フォーラム

今年度スポーツをあてる国は、インドと中国。インド映画「スラムドッグ&ミリオネア」がアカデミー賞を受賞。また、世界に衝撃を与えたタタ自動車の世界最安車「ナノ」がいよいよ世界市場に販売競争を巻き起こします。いったんやると決めたら、不可能なことなど何ひとつない。3月23日、ムンバイ市内で開かれた記念イベントで、タタ社のラタン会長は数千人の聴衆を前に感慨深げに語りました。第3回目となるシンポジウムでは、この話題の尽きないインドと日本の新たな関係を探っていきます。

また、第4回目は17日にわたって熱戦が繰り広げられた北京オリンピックから1年、2016年の東京への招致はどうなるのでしょうか。スポーツ文化に新しい日中関係を探ります。ご期待ください。

第3回

- 【テーマ】「インドと日本の新たな関係」
- 【日時】5月30日(土) 14時
- 【場所】甲友会館
- 【基調講演】慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所教授アフターブセット氏
- 【パネリスト】アフターブセット氏
ウィリアムムケシ氏 慶應義塾大学准教授
M・L・シユレスト 甲南大学経営学部教授
- モデレーター 井野瀬 久美恵 甲南大学学長補佐
- 総合司会 ルチカインディアンダンスアカデミー
ディレクター&アーティストナリニ・ニトニワル氏

第4回

- 【テーマ】「北京五輪から1年——スポーツ文化に新しい日中関係を探る」
 - 【日時】11月7日(土) 14時
 - 【場所】甲友会館
 - 【基調講演】中華人民共和国大使館から外交官をお招きする予定
 - 【特別講演】東京オリンピック・パラリンピック招致委員会企画・広報担当委員 藤原庸介氏
 - パネリスト 藤原 庸介氏
水野 正人氏 ミズノ株式会社代表取締役会長・本学同窓会会長
伊東 浩司 甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター准教授
 - モデレーター 井野瀬 久美恵 甲南大学学長補佐
- 詳細はホームページで随時掲載します。

「いま、甲南大学を考える」 甲南学園創立90周年記念懸賞論文

「いま、甲南大学を考える」ための4つのテーマからひとつを選び、そのテーマについて、具体的な内容を議論していただく懸賞論文を募集します。グローバル化の時代、大学を取り巻く環境が大きく変化するなかで、大学は何を求め、何を期待され、何ができるのでしょうか。

応募対象は、現在、甲南中学校・高等学校、フランス甲南学園トゥレーヌ高等部、甲南大学・大学院に在学中の生徒・学生、さらに甲南大学を志望する生徒です。

創立者平生鈆三郎は「東洋一の大学の創立」「人物教育の率先」「世界に通用する人材の輩出」を唱え、甲南大学はこの理想を追求・継承してきました。そこで学園創立100周年に向けた発展をめざし、皆さんと共に、甲南大学の現在を踏まえ、未来を考えたいと思います。応募された論文の中で、甲南大学への建設的な提言があれば、将来の参考になさせていただきます。多くの方々の応募をお待ちしています。

4つの論文テーマ・規格(用紙・文字数等)、応募方法、送付方法、応募にあたっての注意事項など詳細については、ホームページで「確認いただくか、甲南学園広報部にお問い合わせください。」

【応募期間】

2009年4月1日(水)～10月23日(金)必着

【賞】

- 最優秀賞 1名(賞金10万円)
- 優秀賞 1名(賞金5万円)
- 佳作 1名(賞金2万円)
- 平生クラブリ 1名(賞金20万円)
- 理事長賞 1名(賞金5万円)
- 学長賞 1名(賞金5万円)
- 校長賞 1名(賞金5万円)

問い合わせ先

甲南学園広報部
〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1
Tel 078-435-2314 Fax 078-435-2546
e-mail : kouhou@adm.konan-u.ac.jp

甲南平生GP

2009年度は、3つの取り組みを選定し、実施しています。

- ①キャンパスが西宮やポートアイランドに分散したことや、専門職大学院など高度な教育に対応する心身両面からの学生支援の実施(学生部 医務室・スポーツ健康科学教育研究センター 学生相談室)
- ②キャリア教育・支援のさらなる拡充(キャリアセンター)
- ③「コミュニティ・デザイン・センター(CDC)」による地域連携教育の新たな展開(文学部 CDC 文学部を中心として行っている、地域貢献推進のためのプログラム(阪神文化圏における新たな「コミュニティ創生」もけて)を実行するため2005年度に開設。

社会を生き抜くために必要な力は、自分で考え、自分で行動できること。

中井 伊都子新所長が語る

「就職難」といわれる時代の
キャリアセンターの役割

甲南大学では、自分の進みたい方向を1年次からじっくりと考え、また同時に、社会を生き抜く力を身につけるキャリア教育に取り組んでいます。それぞれの学部では、1年次から4年間にわたりキャリア科目が開講されています。また、キャリアセンターでも、楽しい雰囲気の中でキャリアについて考える実践的なプログラムを取り揃えています。不況で就職難といわれる時代だからこそ、社会や企業で必要とされる能力を、大学にいる間に、時間をかけて養っていくためのサポートをキャリアセンターでは提供したいと考えています。

学生の皆さんに希望することは、内定先を得るために企業への二一ズに自分を安易にあわせるのではなく、自分で考え、決断し、責任をもって行動できるようになることです。一方、入社後の組織では、自分の果たすべき役割がより明確になります。その役割を責任をもって果たす、また時には演じることで、企業の二一ズに応えていってほしいと願っています。

法学部教授 キャリアセンター所長

中井 伊都子

京都大学大学院法学研究科博士後期課程中退。法学修士。2007年4月～2009年3月法学部長を務め、2009年4月キャリアセンター所長に就任。在ジュネーヴ国際機関日本政府代表部、世界人権問題研究センター専任研究員、神戸大学大学院国際協力研究科助手を経て、1998年4月から甲南大学法学部に勤務。

2009年4月

3年次対象キャリア科目

「プラクティカル・キャリアデザイン」スタート！

「プラクティカル・キャリアデザイン」の、担当講師を迎え、講義について、さらには甲南大学の学生の魅力についてもお話いただきました。

現代GP

各大学が工夫を凝らし、他の大学などの参考となる「特に優れた教育プロジェクト」。文部科学省により選定されます。

中山 いよいよ2009年から、われわれが講師を務める「プラクティカル・キャリアデザイン」がはじまります。本田先生は、どんな授業にしていきたいですか。

中山 私、私は、日本キャリア開発協会認定CDA(Career Development Adviser)資格を取得し、キャリアカウンセラーの理論と技法に基づいた「生き方」や「働き方」の支援を推し進めています。以前に大

の授業の目的は、自分づくり。ビジネス社会の考え方や流儀を実践的に学んでほしいと思っています。そこから、「考える自分」をつくってほしいのです。

本田 まずこの授業のゴールは、内定ではなく、仕事をする。仕事の現場のリアルを、実感値を持つて学生たちにみてほしいので、学校の枠をどんどん超えたいと思っています。いろいろな職業の人をゲストに招き、仕事内容や仕事観を直接聞ける機会を多く設けます。企業の人事担当の方にもインタビューを行います。

中山 用動向についてではなく、人事とはどんな仕事をするのかを知ってもらいます。資格を取得し、キャリアカウンセラーの理論と技法に基づいた「生き方」や「働き方」の支援を推し進めています。以前に大

本田 中山先生の言うように、「考える」ことは、現代の大学生にとって重要なキーワードの一つ。今の大学生は、自ら行動しながら考え、自分で答えを作っていく機会が減少しています。さらに問いかけてものごとの本質に迫る機会も少ない。就職活動も、ボタンひとつで簡単にプレエントリーでき、そこで動く錯覚を起こしてしま

本田 勝裕

1985年甲南大学経営学部卒業。株式会社学生支援会に入社し、編集、営業、人事コンサルティング、セミナープロデュースに携わる。1997年に独立。現在は企業、大学、行政などで講演するほか、新聞、雑誌、Webなどで執筆活動を行う。また、キャリア支援Webサイト「ポンタのキャリアゼミ」、キャリア支援の学び舎「ポンタキャリアアカデミー」を主宰。甲南大学のキャリアデザイン科目を2005年4月から担当。
http://www.ponta.co.jp

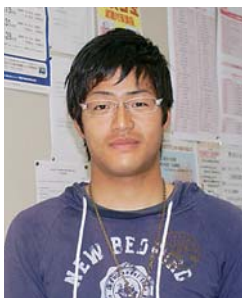
自分の眼で見て、体験して、リアルな仕事観をつけてほしい。

就職活動は、成長のためのツール。授業の目的は、「自分づくり」です。

中山 一郎

1985年甲南大学文学部卒業。現代GP担当として講義やキャリアカウンセリングを行う。1999年～2000年にはラジオ番組「神戸発！就職Vストーリー」のアドバイザーを務める。著者に「イチロー先生のキャリア物語～知恵の一滴」(2000年、ジュンク堂)、「大卒フリーター問題を考える」(2005年、ミネルヴァ書房、共著)など。現在、大阪大学大学院 人間科学研究科にて自らも学生として「キャリア教育」を専門テーマとして研究をおこなっている。

まっ。だから、自分の眼で見て、体験して、リアルな仕事観をつけることが大切です。中山 今の大学生の問題点は沢山ありますが、一方で甲南大学の学生は優れている面がいくつかあります。本田 私は94の大学でキャリア教育の講義をしてきましたが、甲南の大学生たちが持つ「素直さ」は際立っています。だから吸収力も抜群です。ちゃんという水を与えると、大きく成長します。中山 「伸びしろ」があるということですね。以前、ある企業の方に聞いたところ、甲南大学の卒業生は、社会に出たスタート地点では、与えられた仕事をこなすことが多いのでなかなか力を発揮できないこともあるが、人と関わって巻き込んでいたり、自分なりの工夫が求められたりする仕事ではすぐく力を発揮する、と。そんな甲南大生のいいところを伸ばしてあげたいですね。本田 同感です。私の授業は、「受ける授業」ではなく「参画する授業」。「いきいきとした眼で、問いかけ、つくる人」を育てます。甲南のスローガン「個性を力」の言葉どおり、私たちができることは、コーチになつて一人ひとりの資質をどれだけ引きだせるかです。中山 そのとおりです。未曾有の経済危機だから、就職難だからといって、小手先の就職支援をするのではなく、自分の能力を気づかせ、人間を成長させることこそ、キャリア教育の本義だと思います。オーバーかもしれないが、「働くこと」や「生きること」をわれわれの授業から考えてほしいですね。そして、授業を受講した後で言葉にはできない気持ちの変化を持ってもらえたらうれしいなと思っています。



文学部 4年次生
国政 秀平さん

を一枚の紙にまとめたときに実感しました。それ以降、1日1日を有意義に過ごすよう心がけています。2年次の「キャリアゼミ」では、銀行や貿易関係の仕事に就く卒業生の方からお話を伺い、地元の商品メーカーも見学。父が銀行員のため、私も同じ道を志望していました。現在はフードスタイリストや貿易関係の仕事にも興味がありました。3年次で「プラクティカル・キャリアデザイン」も履修するので、将来どんな道に進むか、じっくり考えたいと思います。

先輩の声や企業見学を通して、いろいろな仕事の魅力を知る。



経済学部 3年次生
小松 結衣さん

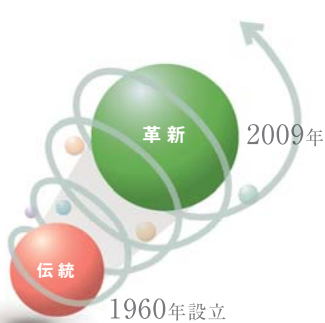
学生たちに聞く
キャリア教育の魅力は？

「参画」する授業を体験し、具体的な将来がイメージできた。将来について不安があったので、本田先生の「キャリアデザイン」を受講しました。この授業は、まさに「参加」ではなく「参画」する(＝自分で作っていく)スタイル。おかげで将来のことを、自分自身の考えで具体的に描いていけるようになりました。準硬式野球部の副キャプテンを務めているためOBの方たちと接する機会が多く、礼儀をしっかりと教わり、これが面接に役立ちました。また、本田先生主催の「PONTAマーケティングリスト」を通して、他大学の学生と一緒に就活研究をしたり、先輩からのアドバイスもいただくことができました。就職後は、強みである「人当たりのよさ」で勝負します。

学部創設50周年に向け、「伝統と革新をキーワードに画期的な教育改革を展開する甲南大学経営学部」にスポットをあてました。

キーワードは、「伝統と革新」。

経営学部教員スタッフ 全員で取り組む スパイラルアップ。



教員の研究成果を教育に還元し、「個性を力へ」ナビゲート。

本学の経営学部は、全国で3番目、関西私学ではじめて設立された伝統ある学部で、これまでに多くの優れた経営者を生み出してきました。しかし、もはや伝統だけでは、質の高い教育、学生の就学満足度が問われる昨今のニーズに 대응することはできません。本学部では、伝統という土台の上に、継承すべきものと変革すべきものを再構築し、教育のスパイラルアップを展開していきます。教員の研究からにじみでた成果を教育に結びつけ、「個性を力へ」を具現するプロジェクトに、学部の教員スタッフ全員で取り組んでいます。

初年次教育の充実と、
バランスのとれた人材育成。

プロジェクトの柱のひとつが、「ビジネスリーダー養成プログラム」です。経営者、国際ビジネス、会計職業人を指向する学生が、2年次から3コースにわかれて専門教育を深める選抜制のプログラム。

2009年度は、39名の学生が選ばれました。このプログラムの狙いは、初年次教育の充実。1年次の早い段階で、「自分はどうな専門分野や職業に関心があるか」「自分の個性に気づく機会や場を提供することです。会計大学院教員が担当する授業や、3カ月にわたる国内企業でのフルインターンシップ、5ヶ月間海外の大学へ留学し、そのうちの1ヶ月間を海外企業でインターンシップを経験するなど、独自の特色ある授業も魅力で、外部との連携による学習効果も期待できます。

ビジネス・リーダー養成プログラム

経営者になりたい
ビジネス・プロフェッション・コース

国際的に活躍したい
グローバル・ビジネス・コース

会計職業人になりたい
アカウンティング・プロフェッション・コース

実践的経営シミュレーション演習 プログラム



「生産コストシミュレーション」は、企業用に開発したプログラムを教育用にリメイクしたもの。実際にパールのエアコン工場を経営。甲南OB・OG、専門家もコンサルタントとして参加します。

この他にも、卒業生が大学に戻ってくる仕組みが「ビジネス・イノベーション研究所」です。経営学部のメンバーが中心になって活動しているこの研究所は、企業、NPO、関係団体等との社会連携を通じて、21世紀型ビジネスモデルを開発することを目的とし、卒業生を含め約400名の方が会員として研究に参加されています。

伝統に礎をおきながらも、革新的かつ特色あるプロジェクトによって、「甲南大学経営学部」というブランドを、また新たな時代に確立していきたいと思っています。

公認会計士 試験に合格!

本年3月に経営学部会計プロフェッションコースを卒業した大黒智陽さんが、現役学部生のときに2008年度公認会計士試験に見事合格しました。大黒さんからのメッセージをご紹介します。

「1年次生のときに簿記科目とキャリアセンター主催の簿記2級の講座を受講したところをきっかけに、公認会計士をめざすことにしました。4年次生のときは高い目標でしたが、大学生活の半分は会計士試験の勉強に費やしましたが、良い友達、先生に恵まれて、充実した大学生活を送れたと思います」

大黒さんは、監査法人に就職されました。大黒さん、おめでとうございます!

〈平成21年度〉

新任教職員紹介

新しい知を育む40人の新任教員と
学生生活をサポートする
21人の職員が着任しました。

理工学部



植上 博史 准教授
[専門分野] 有機合成化学

経済学部



阿萬 弘行 准教授
[専門分野] 金融論

マネジメント創造学部



桐畑 哲也 准教授
[専門分野] アントレプレナーシップ

マネジメント創造学部



新井 康平 助教
[専門分野] 会計学(管理会計、コストマネジメント)

文学部



横山 良 教授
[専門分野] 西洋史(アメリカ史)

理工学部



渡邊 順司 准教授
[専門分野] 生体材料創成学

マネジメント創造学部



Eric Gondree 特定任期教員
[専門分野] TESOL 英語を母国語としない人への英語教授法

マネジメント創造学部



中村 聡一 准教授
[専門分野] 経学財務論

マネジメント創造学部



倉本 宜史 助教
[専門分野] 公共経済学、財政学、公共政策

文学部



田野 大輔 准教授
[専門分野] 社会学

理工学部



内藤 宗幸 講師
[専門分野] 材料科学

マネジメント創造学部



Paul Freeborn 特定任期教員
[専門分野] 専門英語を母国語としない人への英語教授法、英文学

マネジメント創造学部



林 美玉 講師
[専門分野] マーケティング論

フロンティアサイエンス学部



苅野 兵衛 教授
[専門分野] 材料工学

文学部



阿部 真大 講師
[専門分野] 社会学

理工学部



村上 良 講師
[専門分野] 界面物理化学

マネジメント創造学部



佐伯 邦夫 教授
[専門分野] マーケティング、経営戦略

マネジメント創造学部



高 永才 講師
[専門分野] イノベーションマネジメント、経営組織論

フロンティアサイエンス学部



臼井 健二 講師
[専門分野] バイオ計測化学

理工学部



日下部 岳広 教授
[専門分野] 発生生物学

理工学部



富永 望 講師
[専門分野] 宇宙物理学

マネジメント創造学部



Brent A. Jones 教授
[専門分野] Instructional Design Global Studies

マネジメント創造学部



島本 憲一 講師
[専門分野] 環境経済学

フロンティアサイエンス学部



鶴岡 孝章 講師
[専門分野] 無機光化学

理工学部



山本 雅博 教授
[専門分野] 界面物理化学

経済学部



石原 忍 特任教授
[専門分野] 租税法

マネジメント創造学部



Corinne Boyles 教授
[専門分野] 労働経済学

マネジメント創造学部



Roger W. Palmer 講師
[専門分野] English Educational Materials Development, Global Studies

フロンティアサイエンス学部



長濱 宏治 講師
[専門分野] 生命高分子科学

新任教職員紹介

先端生命工学研究所

遠藤 玉樹 講師

〔専門分野〕 生物機能工学

先端生命工学研究所

小林 克彰 講師

〔専門分野〕 錯体化学、電気化学、生物無機化学

先端生命工学研究所

長門石 曉助 教

〔専門分野〕 生体関連化学、生命分子工学

法科大学院

冷水 登紀代 准教授

〔専門分野〕 民法

法科大学院

丸山 敦裕 准教授

〔専門分野〕 憲法

国際言語文化センター

浅羽 真由美 特定任期教員

〔専門分野〕 TESOL、英語教授法

情報教育研究センター

篠田 有史 講師

〔専門分野〕 eラーニング

教職教育研究センター

藤井 一亮 特任教授

〔専門分野〕 哲学、教科教育法

学生相談室

友久 茂子 特任教授

〔専門分野〕 学生相談、臨床心理学

高等学校・中学校

杉本 智昭 教諭

〔専門分野〕 英語

高等学校・中学校

Yates.Michael 契約教員

〔専門分野〕 英語

職員

秋山 祐亮 専任職員

〔資格・特技〕 バスケットボール、ラーメン食べ歩き

職員

小森 尚美 専任職員

〔資格・特技〕 産業カウンセラー、キャリアカウンセラー、心理カウンセラー

職員

半田 岳英 専任職員

〔資格・特技〕 スポーツ

職員

前田 隆則 専任職員

〔資格・特技〕 大体のことは笑って受け流す

職員

松下 倫子 専任職員

〔資格・特技〕 美術館などに行くことが好きです

職員

山本 明希 専任職員

〔資格・特技〕 国内外を旅行すること

職員

池下 佳成子 嘱託職員

〔資格・特技〕 甲種危険物取扱者、毒物劇物取扱者

職員

岡本 道代 嘱託職員

〔資格・特技〕 書道

職員

河津 利恵子 嘱託職員

〔資格・特技〕 料理、HP作成

職員

川西 由記 嘱託職員

〔資格・特技〕 水泳

職員

川畑 恵子 嘱託職員

〔資格・特技〕 人を楽しませること

職員

楠木 裕美 嘱託職員

〔資格・特技〕 アロマセラピー・アロマザー

職員

関川 由美 嘱託職員

〔資格・特技〕 第1種教員免許（保健体育）中学・高等学校、陸上競技

職員

大長 敬幸 嘱託職員

〔資格・特技〕 水泳、スポーツ

職員

戸田 良夫 嘱託職員

〔資格・特技〕 建築物環境衛生技術者

職員

中谷 実咲 嘱託職員

〔資格・特技〕 書道初段、中華料理

職員

名取 あかね 嘱託職員

〔資格・特技〕 中国語、マンドリン演奏

職員

藤岡 志緒 嘱託職員

〔資格・特技〕 バイク

職員

湊 友子 嘱託職員

〔資格・特技〕 漢字能力検定2級、日本馬術連盟騎乗者資格B級

〔平成21年度〕
退任教員紹介

長きにわたり、学生たちの知を育んできた
14人の退任教員を紹介いたします。

長い間ありがとうございました。

高須 要子 教授「法科大学院」
垂井 英夫 特任教授「経済学部」
以上2名の教員も退任いたします。

川合 清隆 教授

文学部

38年の教壇人生でした。卒業式が来るたび、「若い学生は去る、されど私は留まり年老いていく」が、年度末の私の感懐でした。ところが今回は、卒業生と共に私も去ることになりました。私は相撲が好きでテレビ観戦を楽しんでいます。38年立ち続けた甲南大学の教室は、いわば学生と格闘した私の土俵でした。何人の学生と格闘したのか数知れませんが、学生を教養育ながら、私も鍛えられて半生を過ごした甲南を巣立って行きます。

平松 闊 教授

文学部

甲南大学には1989年に赴任し、20年間気持ちよく過ごさせていただきました。1995年のあの「大震災」のとき、崩れる街中をゼミ生の消息を求めて歩き回ったこと、「仮設校舎での授業」、そして21世紀に入って、見事に新生なった甲南大学での学生さんたちの「さまざまな格闘」、どれもなつかしい思い出です。いつまでも、甲南が甲南らしさを失うことなく、学生さんが、のびやかに大学生活をおくることができまよう、祈ってやみません。

山田 隆己 教授

理工学部

昭和44年秋の着任以来39年余りを甲南大学でお世話になりました。その間に会った教職員の方々および学生諸君のおかげで概ね大過なく定年を迎えることができたことを感謝しています。阪神大震災で大学が大きな被害を受け、また私たちの実験室が焼けてしまった際に、その復興のために大変多くの皆様の心が一つとなったことが強く印象に残っています。甲南大学の更なるご発展をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

玉置 克之 教授

理工学部

46年前、故坂口理工学部教授の勤めで勤めて以来、多くの教職員の方々の暖かいご支援と励ましを受け、めでたく停年を迎えることが出来ました。その間、大学紛争、水害、震災などもありましたが、ここ岡本の地はそれほどの変化もなく、学生の気質も、見た目自分の学生時代とほとんど変わらず、学生であふれる学園内で甲南中学以来56年間過ごせたことを心から感謝しています。いつまでも変わらぬ甲南でありますよう祈念して感謝の言葉としたいと思います。

佐々木 宗夫 教授

理工学部

学生達が彼らのエネルギーを純粋に自らの成長過程に注入していく…、甲南大学で、その営みに日々接してきたことは真に幸せなことであった。本学は今、伝統の負荷の中で、新たな教育と研究の展開を試みている、常に新たな解釈を模索していくクラシック音楽のように。そこには教習を結集し、熟成された芳香を放つともいふべき行動が全甲南人に期待されている。“品格ある大学”としての発展を祈念している。

服部 雄一 教授

知能情報学部

今、甲南大学及び甲南高等学校・中学校での様々な出会いが思い出されます。ゼミ生、院生、高大連携授業での生徒、顧問をしていた甲南大学バドミントン部の選手やOB、そして教職員の皆様との出会いなど。特に2007年度から2008年度の大学執行部で、学長補佐・大学企画室長として様々な課題に取り組んだこと。また17年前に理学部応用数学科の教員として着任し、大学院修士課程や博士後期課程、理工学部情報システム工学科、そして知能情報学部開設に関わったこと、言葉では表現できない想いが今こき上げられます。大変お世話になりました。皆様に深く感謝いたします。

山口 純夫 教授

法科大学院

昭和45年10月に京都大学大学院博士課程在籍のまま法学部助手に採用され、昭和48年4月から講義・演習を担当しました。以来数多くの学生諸君との交流、4年度の留学（ドイツ・通算3年3ヶ月）、平成3年からの学部長職、法科大学院での経験等々振り返ればざりがありせん。最後の法科大学院での5年間は、講義のやり方に慣れないうちに過ぎてしまいました。退職後は第3の人生を楽しみたいと思っています。

倉持 孝司 教授

法科大学院

お世話になりました先生方、事務職員の皆さん、そして学生の皆さんに感謝いたします。また、さまざまにサポートいただきました甲南学園に感謝いたします。お陰さまで充実した時間を過ごすことができました。所属しておりました法科大学院そして甲南学園がますます充実し発展していくことをお祈りいたしております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

宮田 靖国 教諭

高等学校・中学校

甲南に奉職する事、43年に垂んとする星霜を過不足なく送らせて頂き、加之、大変お世話になり、深甚なる謝意を表します。顧みて、生徒諸君をよく薫陶し、且つ扶翼し得たかどうか、忸怩たるもの無きにも非ずと雖も、尽瘁は致しましたので、惜別に当たり、万感胸に迫るものがあります。末筆乍ら、甲南の弥栄と皆様の御多幸を祈念申し上げます。

荒井 忠男 教授

特任教授 経済学部

新聞社を退社した後、ご縁あって私が甲南大学に来たのは、震災の翌年の1996年でした。1号館が建設中で、5号館はまだなく、グラウンドにプレハブの事務棟と教室が並んでいました。そのころに比べると、キャンパスは大変、整備されました。70歳という高齢まで、若い人たちを相手に、日々新たな気持ちで過ごさせてもらったことを感謝しています。教えることは、学ぶことでもありました。甲南大学の一層の発展を願ってやみません。

臼井 英治 教授

特任教授 教職教育センター

甲南大学での十一年間は、私にとって至宝ともいえるもので。緑の多いキャンパスで、良き先輩・同僚と素直で前向きな学生たちに恵まれた中で、研究と教育に励めたことは、この上ない幸でした。岡山からの遠距離通勤でしたが新幹線で来るのを楽しみにしていました。定年退職にあたり、皆様に厚く御礼申し上げますと共に、甲南大学の弥栄と学生・卒業生の皆様の益々の御活躍をお祈りいたします。

吉田 賢史 教諭

高等学校・中学校

平成三年に着任以来、十八年間甲南でお世話になりました。教員も生徒も伸び伸びとした自由な環境の中、教えるということは何かを教わったような気がします。教職という職業の折り返し地点を目の前にして甲南を去りますが、もう一度、初心に戻って平生精神を大切にしながら教職という職業を見つめ直したいと思います。先生方、職員の皆様、在校生、卒業生の皆様、保護者の皆様に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

第一線で活躍する卒業生に、
ご自身の生き方について
おうかがいするこのコーナー。
今回は、ヴァイオリニストとして、
クラシックだけでなく
さまざまなジャンルで活躍する
山中裕平さんにインタビューします。

今の音楽性に 大きな影響を 与えてくれた 甲南時代。



Yuhei Yamanaka

ヴァイオリニスト 山中 裕平氏

1996年甲南高等学校卒業

桐朋学園大学音楽学部カレッジ・ディプロマコース(ヴァイオリン専攻)修了
国立音楽ジャズミュージシャン科卒業
宮日音楽コンクール最優秀賞をはじめ、数多くのコンクールで入選。
現在はソロ、室内楽、ジャズ、タンゴなど幅広い分野で活動を展開中。

人とのつながりが、 可能性を広げてくれる。

現在、ヴァイオリニストとして活動
していますが、もしかしたらみなさん
がイメージしているそれとは少し異な
るかもしれません。私の場合、クラシッ
クはもちろんですが、ジャズにタンゴ、
ポップスやロックなど、さまざまなジャ
ンルで演奏しています。たとえば、和田
アキ子さんなど歌手の方のバックで弾

くこともありますし、EXILEの
ATSUSHIさんのプライベート
パーティーで演奏すること。ただヴァ
イオリンを弾くのではなく、演奏中に
動きをつけたパフォーマンスをしたり、
時には叫んだり(笑)、タンゴの演奏で
は踊りながら弾いたこともありまし
たね。ダンサーの邪魔にならないよう
にね(笑)。

コンサートや演奏会が多いときで月
に2〜3回程度行っていますが、私は

オーケストラに所属していないので、音
楽関係の友人やこれまでの人とのつ
ながりで仕事のオフアをいただくこ
とがほとんどです。そのため、いきなり
オフアがきたり、見知らぬ人たちと
コラボレーションしたりと大変なこと
もありますが、新しい場での演奏は、こ
れまでと異なる自分が発見でき、演奏
技術の幅や可能性が広がっていく面
白さもあります。自分で枠を決めてし
まわずに一歩踏み出すことで、知り合
いや友人が増え、それがまた今後の仕
事につながっていく。本当に今、人との
つながりの大切さを実感しています。

甲南時代が

いまの自分をつくる礎に。

私は中・高と甲南に通っていました
が、決して優等生ではなかったと思
いますし、音楽一筋ではありませんで
した。当時は友達とふざけたり、騒い
だりといった毎日で、とにかく面白
いことがすべての基準になっていまし
たね。先生にあだ名をつけたり、いかに
してみんなを笑わそうかと頭をひねつ
たり。仲間はみんな個性豊かで愉快な人



たちばかりなので、自分も負けないよ
うにと一生懸命考えるんです。もち
ろ先生に叱られることもありまし
たよ(苦笑)。でも、反省したら大らかに
許してくれる。こういった甲南時代に
培った考える力、想像力、そして何事
も楽しむという姿勢は、私の音楽的感
性を自由なものへと育んでくれまし
た。もちろん、今の活動にも多大な影
響を与えています。ただヴァイオリ
ンを弾くだけでなく、どうしたらお客
さんが喜んでくださるか、こうしたら
もっと楽しめるんじゃないか、タンゴや
ジャズに挑戦しているのもそうです
が、甲南時代の勉強においても遊びに
おいても試行錯誤して行動する姿勢
は、演奏家としての今の活動に間違
いなく生きています。

また、「中・高の友達は一生の友達」
とよく言われますが、甲南時代の友
達とのつながりはそれ以上、家族と同
じくらい大切な存在です。利害関係
のない多感な時期を一緒に過ごした
仲間ですから、10年以上経った今で
も、いつも駆けつけてくれて応援して
くれます。関西で演奏するときは、友
達や甲南関係の方々が話を聞きつけ
自然と集まってくれるんです。甲南の
ネットワークってすごいですね！

今ふり返ってみると、私がヴァイオ
リニストとして活動できているのも、
甲南の個性を尊重する自由な校風
と、そこで築いた人とのつながりの大
切さを学んだからこそ。高校進学の時
に、将来に向けて音楽学校に通うとい
う選択もあったのですが、もし音楽学
校に進学していたら今の私はなかつ
たんだろうなと思います。

そういう意味では、後輩の甲南生に

「オール甲南の集い」 「甲南高校同窓会総会」では、 是非楽しんでください。

今年の「オール甲南の集い」「甲南高
校同窓会総会」では、「ヴァイオリン・
コンサート」をさせていただくことにな
りました。先輩貴志康一さんの生誕
100年を記念して、貴志さんの曲も
演奏します。甲南出身で、同じヴァイ
オリニスト、在学中からすごく特別な
存在だった貴志さんの曲を弾けるこ
と、そしてそれを甲南のゆかりのある
方に聴いていただけるということは、運
命という大げさですが何かの巡り
合わせを感じます。甲南関係の方々
は、すごく温かく迎えてくださいまし
し、私自身すごく嬉しく、楽しみにし
ています。

甲南の人たちは、拍手の仕方ひとつ
にしても「甲南らしさ」が顔れているん
です。通常クラシックのコンサートで
は、いつ拍手をするかは曲の中で決
まっているのですが、甲南の方は心の
底から感動した時に拍手をしてくだ
さるんです。あらためて、甲南人の感

性の豊かさ、型にはまらないところ、
人間味あふれる魅力を感じることが
できて、逆に嬉しく感じています。

ヴァイオリン・コンサートという弱
屈なイメージがあるかもしれませんが、
ヴァイオリンはいろいろな音色を奏で
ることができるとても奥深い楽器。基
本はもちろんクラシックですが、実は
エレキギターでできることはだいたいで
きてしまふ。私自身その多彩な音色
に一番の魅力を感じます。そして、今
度のコンサートではなによりもみなさ
んに楽しんでいただきたいとさまざま
な構想を練っています。クラブミニ
ミックなど、これまでになく演出も考
えていますので、堅苦しく考えずに足
を運んでいただけたらと思います。

甲南学園のイベントで 山中裕平氏が ヴァイオリンを演奏！

●「オール甲南の集い・夢舞台」
山中裕平ヴァイオリン・コンサート
5月24日(日)午後3時〜(夢舞
台は午後2時)詳しくは、本誌
P.22「オール甲南の集い2009」の
ページをご覧ください。

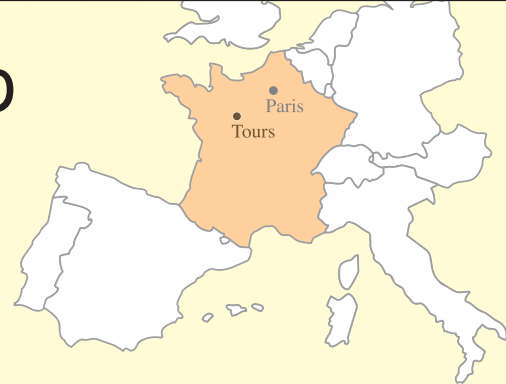
●甲南高等学校同窓会総会
記念演奏会
5月30日(土)午後6時〜
場所：神戸ベインシエラホテル
& タワーズ
詳しくは、本誌P.25「KONAN
FORUM」をご覧ください。

フランス甲南学園トゥレーヌだより

Actualités du Lycée-College KONAN de Touraine-France

フランスを楽しみ、フランス人との心の交流を育む地元クラブ

本校では、学校が運営する校内クラブに加え、地元市などが運営する通称“地元クラブ”への参加が認められています。その種類は各種スポーツ、音楽、美術、バレエ・ダンスから、料理やお菓子作りまで様々な内容が用意され、生徒たちはそれぞれの趣味や目的に応じてクラブを選び、フランス人に交じってクラブ活動に参加しています。地元クラブでの活動は、フランスならではの経験や同じ趣味を持つ者同士の交流を楽しみながら、フランス人たちとの相互理解や心の触れ合いを深め、生徒たちを人間的に成長させる場になっています。



équitation

フランスで乗馬を楽しむ
高等部2年 萬代 伸哉(乗馬)
 が精一杯でしたが、最近では少し余裕もできて、馬上からの景色を楽しんでいます。フランスでは乗馬は非常に盛んで、日本とは全く違い、身近なスポーツとして多くの人たちが気軽に楽しんでいます。僕はこのような環境のなかで乗馬を学べることに喜びを感じています。
 乗馬は他のスポーツと違い、馬と一体になることが大切です。そのためには乗馬の技術を向上させるだけではなく、馬と気持ちを通わせなければなりません。そのため馬に餌をあげたり、体を洗ったりして、できるだけ触れ合うように努力しています。
 クラブでは大会が月に1回行われます。とても楽しそうなので、この大会に出場できるぐらいに上達することが今の目標です。



中央が萬代さん



前列右より2番目が新谷さん

サッカークラブは大人気でプレーするものなので、チームメイトとのコミュニケーションが必要です。最初はフランス語がうまく話せず、チームメイトが話しても、なかなか溶け込めませんでした。プレーを通して相手の考えや気持ちを理解することで、言葉がなくても通じ合うことができました。コミュニケーションは言葉に頼りがちですが、一番大事なのは気持ちを通じ合わせようとするのだと思います。
 今ではフランス語もだいぶ上達してチームメイトとの会話もできるようになりました。今後もクラブ活動や勉強に全力で取り組み、サッカーもフランス語も、そして仲間たちとの関係もさらにレベルアップしていきたいと思っています。

volley-ball



前列左より4番目が河上さん

クラブに行きはじめた頃、フランス語で会話もできず、バレーボールも初心者だったので戸惑いの連続でした。そんなとき、身振り手振りで指導してくれたのがコーチやクラブ仲間のフランス人たちです。同じスポーツに励む仲間と盛り上がり、会話が楽しくなりました。
 試合ではミスをして、励ましあったり、アドバイスをくれたりしました。勝つのも負けても、みんなで楽しく打ち上げをするのがフランス流。
 ある日、私がクラブの帰り道で一人だったとき、チームメイトが一緒に帰ってきました。私がその子たちに「ありがとう」と言うと「友達だから当たり前だよ」と言ってくれました。この時、クラブの仲間たちと心が通じ合えたことを実感することができました。この経験は今でも私の支えになっています。

サッカーを通じてフランス人とコミュニケーション

高等部1年 新谷 嘉徳(サッカー)

サッカークラブは大人気でプレーするものなので、チームメイトとのコミュニケーションが必要です。最初はフランス語がうまく話せず、チームメイトが話しても、なかなか溶け込めませんでした。プレーを通して相手の考えや気持ちを理解することで、言葉がなくても通じ合うことができました。コミュニケーションは言葉に頼りがちですが、一番大事なのは気持ちを通じ合わせようとするのだと思います。
 今ではフランス語もだいぶ上達してチームメイトとの会話もできるようになりました。今後もクラブ活動や勉強に全力で取り組み、サッカーもフランス語も、そして仲間たちとの関係もさらにレベルアップしていきたいと思っています。

地元クラブの仲間との心が通う交流

高等部3年生 河上 晴香(バレーボール)

クラブに行きはじめた頃、フランス語で会話もできず、バレーボールも初心者だったので戸惑いの連続でした。そんなとき、身振り手振りで指導してくれたのがコーチやクラブ仲間のフランス人たちです。同じスポーツに励む仲間と盛り上がり、会話が楽しくなりました。
 試合ではミスをして、励ましあったり、アドバイスをくれたりしました。勝つのも負けても、みんなで楽しく打ち上げをするのがフランス流。
 ある日、私がクラブの帰り道で一人だったとき、チームメイトが一緒に帰ってきました。私がその子たちに「ありがとう」と言うと「友達だから当たり前だよ」と言ってくれました。この時、クラブの仲間たちと心が通じ合えたことを実感することができました。この経験は今でも私の支えになっています。

心を成長させる。本物に触れさせる。海外遠征。サッカー部が本場イギリスへ飛んだ！

甲南高校サッカー部がサッカー発祥の地、イギリスへ海外遠征。3月19日(木)～3月26日(木)という8日間のスケジュールで、22名の選抜メンバーたちは姉妹校であるダリッチ・カレッジとの親善試合やホームステイなど、充実した異文化交流を体験してきました。



芝生が整備されたダリッチ・カレッジの専用グラウンド。

初めて経験した世界のサッカー。自分たちのサッカーで勝負ができた。

最初に訪れたのは、約400年の歴史を誇るパブリックスクール「ダリッチ・カレッジ」。選抜メンバーたちは、まず、その練習環境に驚きました。サッカーグラウンドだけでも10面もある広い練習場に加え、専用のロッカールームが整備されるなど、その施設の充実ぶりに目を奪われていました。親善試合の方では身長差や体格の違いに戸惑い、苦戦を強いられました。慣れない芝生でのプレイや時差の問題もあり、残念ながら勝利を逃しましたが、試合内容では甲南高校サッカー部らしい「つなぐサッカー」を見せることができました。

元オリンピック代表コーチがコーチング。見事、遠征初勝利を達成！

試合の合間に、中国女子サッカー・ナショナルチームの元コーチ、キース氏による世界レベルの指導を受けました。その成果が出たのか、続く名門校「ハロウスクール」との試合では、見事先制点を獲得。しかし、そのゴールが相手の闘争心に火をつけることとなり、そのまま逆転を許してしまいます。勝ち負けに徹底してこだわるイギリスの国民性も垣間見えた一戦でした。また、最後に訪れた「ボックスヒルスクール」との試合では念願の遠征初勝利。メンバーたちは、自分たちのサッカーが世界に通用することもわかり、大きな自信になったようです。



生徒たちはキース氏の指導に熱心に聞いていました。

異文化との交流や本物を体験し、人としても大きく成長できた。

イギリス滞在中、選抜メンバーたちはダリッチ・カレッジに通う生徒たちの各家庭にホームステイしました。言葉や文化など異なる環境での生活に戸惑うメンバーもいたようですが、「サッカーが大好き」という共通のテーマから話が盛り上がり、自然と親交も深まったようです。遠征の最終日にはホストファミリーとの別れに涙するメンバーもいるほどでした。また、メンバーたちは、世界的に有名なあの「チェルシーFC」のホームスタジアムを見



チェルシーFCのピッチに立ち、感動するメンバーたち。

甲南高校サッカー部

半田監督の指導の下、47名が日々練習に励んでいる。細かいパスワークを得意としたプレイスタイルで、2008年5～6月の兵庫県高等学校総合体育大会で兵庫県ベスト8の戦績を残している。



学。憧れの選手が使用する選手専用通路やインタビュー席など、本物の施設を間近で見ることができ大興奮の様子でした。これらキース氏の指導やスタジアム見学を遠征に取り入れたのは、「本物に触れる」という創立者平生飢三郎先生の教育方針を、甲南高中が創立90年を経た今も受け継いでいる証にほかなりません。甲南高中では海外遠征をはじめ、広く海外校と提携を結び、海外へ赴くことはもちろん、海外からの留学生を迎えています。なかには、そこで生まれた交流が卒業しても続いている生徒もいます。生徒たちにとって人間的成長を促す大きなエネルギーとなるように、建学の精神「世界に通用する人材の輩出」をめざし、多くの生徒がその機会に恵まれるように、今後も海外遠征や国際交流を拡充していきます。

なるほど！ 甲南 アカデミア

先生、
知の最前線を
教えてください

健康科学、スポーツ医学 に対する需要の高まり

数年前から「健康ブーム」ということばを頻繁に耳にするくらい人々の健康に対する関心が高まっています。日本における高齢化率（65歳以上の高齢者の割合）は2015年に26%、50年には35%に達すると予想され、急速な高齢化への対策は急務であり、もはや国民の健康増進は大きな社会問題です。そういった社会状況を背景に、健康科学やスポーツ医学に関する研究分野も注目を集めています。特に医療費問題、医師の不足など様々な問題を抱える日本では、今後、予防医学（病気にならないようにすること）に真剣に取り組むことが急がれます。

運動は体にいい。 しかし、間違った運動は体に悪い

米国においては、運動不足による肥満の影響は社会的な問題となっており、最も活発な研究分野の一つであるといえます。そこで注目されているのが運動なのです。ところが、単に運動をすればいいという訳ではありません。体というのは正しく効果的に動かさないと、状態が改善するどころかかえって悪化する恐れがあるのです。そのため、運動が体に及ぼす様々な効果を明

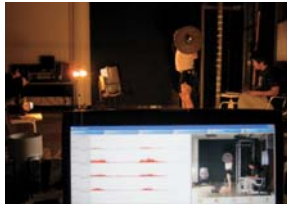
つめは「柔道の教育的価値に基づく米国へ向けた教育理論の確立」です。

膝にかかる力は 人それぞれ！

1つ目の「荷重メカニズムの解明」は、主に筋電図、X線、3次元動作解析、MRIを用いて下肢筋の活動状態や、骨格の変化、動きの変化、筋肥大の状態などを調べています。08・09年に客員研究員を務めた米国のカンザス大学では、「異なる条件におけるスクワット動作の運動学的研究」と「筋柔軟性と筋硬度・EMGとの関係性」に関する研究をカンザス大学のApplied Physiology（運動生理学）研究室とBiomechanics（バイオメカニクス）研究室との共同プロジェクトにより実施しました（写真①②）。



① 下肢筋への筋電図貼り付け



② スクワット時の筋電図測定

膝関節は、人間の荷重を支える非常に重要な関節です。加齢に伴い体に発生する大きな問題の一つに、変形性膝関節症という症状があります。これは、膝関節の骨が圧迫されることにより擦り減るという現象で、最終的には膝関節を人工的なものに置換しなければならぬこととなります。この変形性膝関節症は、40歳以上の男女の6割が罹患しているというデータもあり、加齢とともに膝痛が生じ、歩行が困難となってしまう。運動不足解消や心臓病などの予防のためにウォーキングを始める人も多いですが、自分自身の体の特徴と力学的な関係を理解しておかなければ、健康のためにした運動が逆に体を壊すことにもなりかねません。我々はこの問題に取り組み、変形性膝関節症を防ぎつつ健康を増進するために、力学的な分析を

“守備範囲は、人々の健康から 一流スポーツ選手の体づくりまで。 心優しきスポーツ医学博士。”

昨今よく耳にする「健康科学」や「スポーツ医学」ということば。これらはスポーツ選手だけに限るものではなく、実はわれわれすべての人間にとって非常に身近で欠かせない分野です。誰もが抱えている「いつまでも健康に暮らしたい」という願い。その願いを叶えるために研究に励む曾我部講師が、自身の研究内容と“健康”のヒントを語ります。

甲南大学スポーツ・
健康科学教育研究センター講師
カンザス大学 (The University of Kansas)
客員研究員 (08-09)

曾我部 晋哉

甲南大学 経営学部卒業
筑波大学大学院博士課程
人間総合科学研究科スポーツ医学専攻
スポーツ医学博士（筑波大学）
北京オリンピック（2008年）女子柔道チーム
ストレングスコーチ、
ロンドンオリンピック（2012年）柔道ナショナル
チーム総務コーチ。緑の下の力持ちとして
選手を支える重責を担う。

Congratulations!

2009年11月に出版される「Marquis Who's Who in the World 2010」に曾我部講師がノミネートされました。2008度の研究業績と国際活動が評価されたものです。なお、甲南大学からは、経営学部のマノジュラル・シュレスタ教授が2007年度の「Marquis Who's Who in the World」および「Marquis Who's Who in American Education」に掲載されています。

体を力学的観点から 考える研究

私の研究分野はスポーツ医学ですが、特にその分野の中の「バイオメカニクス」が専門になります。「バイオメカニクス」とは、人間の体がどのような動きをするのか、どのような力が生じているかなどを力学的観点から考えるものです。例えば、膝関節の軟骨を人工的に作るための素材などを検討するようなこともバイオメカニクスの分野に入ります。私の研究は大きく分けて3つに分類することができます。1つは「膝関節を中心とした人間の荷重メカニズムの解明」、2つめは「認知症予防のための脳と運動の関連性の解明」、3

様々な観点から実施しています。数年後には、我々の実験により個人の特徴に応じた効果的な歩き方や荷重の方法が体系化されると思います。

認知症を予防する



③ ある指令に対してどのような歩行動作の特徴があるか分析しています。（神戸市グループホーム内）

2つ目の研究である「認知症予防のための脳と運動の関連性の解明」は、知能情報学部の前田多章准教授の研究室と共同で進めており、現在本学総合研究所のプロジェクトとして採択され、神戸市のグループホームの協力のもと、アルツハイマー病と診断された患者さんを対象に、認知能と歩行動作の分析を行っています（写真③）。認知症予防のための一つの要因が運動であるとの共通的な見解から、カリフォルニア大学サンディエゴ校のGeow-Light博士との共同研究の話が進行しています。我々の分析が進行すると、認知症の早期の発見につながり、そのことにより認知症の発症を予防することができるとも思われます。

柔道が秘める メンタル面における効能

3つ目の研究、「柔道の教育的価値に基づく米国へ向けた教育理論の確立」は、米国の柔道選手と一般学生との精神的な違いを比較し、礼儀やマナーを最も重んじる柔道がメンタル面にもたらす効果を心理学的観点から分析するものです。米国では、若者の精神的な問題が多く発生しており、この問題に柔道が効果的であるとの論文がヨーロッパを中心に発表されています。また、私自身柔道の指導者および選手であり、米国の多くの道場においても、講演・指導を行っていたことから、柔道の教育効果を直接感じ、着目していました。現在、米国において学術的に柔道の価値を高め、教育論として確立するべくカンザス大学との共同プ

人との触れ合いが生きた 理論を生み出すー今後の取組みー

人を対象にした研究において最も懸念されることは、直接現場で指導する人と、研究理論を開発する人の間にギャップが生じてしまうことです。いくら良い研究成果があっても、現場で指導する人がその研究を理解していなければ、的確な指導はできません。また、逆に研究者が現場の実状を知らなければ、机上の理論となってしまう。私は、研究活動を行うと同時に自らも指導の現場へと出ていき、人との触れ合いを大切にしています。そうすることにより、指導を受けられる方および他の指導者からの意見を研究に生かしたい。そして、常に新しい研究成果を指導者へとフィードバックし、優れた指導者を増やしていきたいのです。これからも、子どもたちから世界で戦うアスリートまで、幅広い方々に資する研究を続け、最先端の理論を開発・啓蒙し指導にあたっていきたいと考えています。

曾我部講師の 著書



下肢トレーニングの科学
不味堂出版¥2,415(税込)
日本人に多い内反膝に着目し、適確な下半身のトレーニング方法を紹介。

※障害者が、専門スタッフの援助を受けながら自立し地域社会で生活するための共同住居。介護保険導入後、認知症対応型の施設が急速に増えた。

毎回、アンケートのおはぎで読者のみなさんからたくさんのご質問やご要望を頂戴しております。この場を借りて、深く感謝申し上げます。今回の「こちら甲南特捜部」は、いつもより枠を拡大し、お寄せいただいたご質問、ご要望にお答えします！



貴志康一について

旧制甲南高等学校で学んだ、日本を代表する天才音楽家、貴志康一。本年3月31日、生誕100年を迎え、各種記念コンサートが開催されるなど再び脚光を浴びています。

↓詳しい情報は「甲南Today」NO.315ページをご覧ください。

ストラディヴァリウスとは？

「ストラディヴァリウス（またはストラディ）」とは、イタリアの弦楽器製作の名人アントニオ・ストラディヴァリ（1644年〜1737年）が手がけたヴァイオリンをはじめとする弦楽器を指す呼称で、いまや「ストラディヴァリウス」は名器の代名詞ともなっています。

貴志康一とストラディヴァリウス

貴志康一と聞いて浮かぶのは、作曲家・指揮者というイメージ。しかし…

1926年12月、貴志はヴァイオリンを学ぶため、甲南高等学校を中退し、スイスのジュネーブ国立音楽院に留学しました。そして、一年半研鑽を積んだ後、ヴァイオリンの巨匠カール・フレッシュが主任教授を務めるベルリン国立音楽大学に移り、1930年に東京及び大阪でヴァイオリニストとしてデビューしていたのです。貴志がベルリンにいた頃、購入、愛用したヴァイオリンが、キング・ジョージ3世という愛称を持つストラディヴァリウスです。ストラディがもともと円熟した1710年66歳の時に製作、英国王室に買い上げられ、ジョージ1世、後にジョージ3世が愛用していたことから、そう呼ばれました。

ストラディが貴志にもたらしたもの

3度目の渡欧となる1932年12月

貴志康一が愛用していた
ストラディヴァリウスは、
その後どうなったのでしょうか？



甲南が生んだ天才音楽家貴志康一。彼は、かの名器、ストラディヴァリウスを愛用していました。そこで今回は、彼が愛用したストラディヴァリウスの行方を追いかけてみました。

貴志、ストラディを抱いて帰国

徴兵検査が近づいていた1929年、貴志はストラディヴァリウスを抱いてシベリア鉄道で帰国。当時の新聞がこぞ「6万円という名器抱いて、若き貴志君帰る」と書き立てました。ストラディヴァリウスは、それほど素晴らしいヴァイオリンだったという訳です。

里帰りした貴志は、JOBK（現在のNHK大阪放送局）においてストラディヴァリウスでモーツァルトの「ロンド」やブルッフ「ヴァイオリン協奏曲」など数曲を演奏し、その模様は全国中継で放送されました。また、帰国の途、シベリア鉄道で知り合ったピアノ・ソロ・シロタを伴奏者に迎え、ストラディヴァリウスによるリサイタルを東京、京都、大阪で開催しました。これらは、日本人にとって、日本人が弾くストラディヴァリウスをリサイタルで聴く初めての機会となったのです。

貴志のストラディは今

以降、貴志は作曲及び指揮活動により多忙となり、翌年9月、4年間愛用したストラディヴァリウスを手放しましたが、後に代表作となる「竹取物語」や「龍」、
「ヴァイオリン協奏曲」等ヴァイオリンを用いた作品を数多く生み出しており、ストラディヴァリウスから学んだことは決して少なくなかったようです。

貴志が愛用していたストラディヴァリウス「キング・ジョージ3世」は、現在ハビスロイティンガー・ストラディヴァリウス財団が所有しています。この財団は、繊維企業家で大の音楽愛好家でもあるロルフ・ハビスロイティンガーが1964年にスイスで設立した財団です。当財団のストラディヴァリウス・コレクションは、世界で最も有名な弦楽器コレクションのひとつで、これらは、厳密な審査のうえ演奏家に貸与が許可されています。

本年5月、「第8回ストラディヴァリウス・サミット・コンサート」が開催されるにあたり、キング・ジョージ3世を含め、価値総額90億円とも言われるストラディ11挺（ヴァイオリン7挺、ヴィオラ、チェロ各2挺）が来日します。そして、その大阪公演（5月20日（水）19時）ザ・シンフォ

ニーホール）では、貴志康一の生誕100年にちなんで、何と貴志作曲のヴァイオリン独奏曲「龍」が「キング・ジョージ3世」で演奏されるというビッグニュースが！貴志にとつて記念すべき年にまたひとつ花が添えられました。

ベルリン・フィル～幻の自作自演集



貴志がベルリンフィルを指揮し、自作を披露した貴重な演奏を収録しています。

竹取物語



代表作「竹取物語」「龍」などの楽曲がお聴きいただけます。

この2枚を含む貴志康一のCDは甲南学園で買い求めいただけます。

●お問い合わせ先
078-435-2628
（甲南学園広報部）

今後、どのような企画が予定されているのですか？

「甲南Today」NO.32で紹介されたギャラリー・パンセでは、

現在予定されている作品展をご紹介します！
ギャラリー・パンセのすぐ横には、カフェも併設しておりますので、お茶や軽食を召し上がりながら、作品を鑑賞していただくこともできます。どうぞお気軽にお越しください。



1

2009年4月11日（土）～5月9日（土）
本誌目次ページの美しい花の写真でおなじみ柚実さんによる癒しの写真展「Yuzumi Garden」



甲南大学のキャンパス、岡本の街で咲く花たち…
四季折々の一瞬の美しさを写真に閉じ込めました！
ギャラリー・パンセが癒しのお花畑に！
詳細は、柚実HP（<http://www.yoshiyuzumi.com/>）をご覧ください。

2

2009年5月25日（月）～6月6日（土）
国際フォーラム（インド編）関連企画
原 喜久雄 写真展
「眠れる大地から夢の大地へ」



厳しい自然と闘いながら、懸命に生きるインドの人々。彼らの明るくたくましい姿をレンズが生き生きととらえました。
国際フォーラムに関する情報は、P3をご覧ください。

3

2009年9月18日（金）～10月3日（土）
『在日一世』李朋彦 写真展
日本全土で生きて来た在日韓国・朝鮮人一世の軌跡



かつて、多くの朝鮮人たちが関門海峡を渡り日本各地に散った。そして敗戦後、再び海峡を渡り故郷へ帰っていった。しかし、海峡を渡れず日本に残った朝鮮人たちがいた。その彼らが在日の歴史をつくったのだ。

三世が一世に出会った。
膝をつき合わせて語り合った。
一緒に涙を流した。そしてシャッターを切った。
金順鳳さん 山梨県在住

※予定を変更または追加することもございますので、ホームページでご確認または電話でお問い合わせください。

ギャラリー・パンセ

- ギャラリーURL
<http://www.konan-cdc.jp/pensee/index.html>
- 問い合わせ（平日9時～17時まで）
078-435-2673（甲南大学文学部事務室）

カフェ・パンセ

- 営業時間
平日：10時～19時 土曜：11時～13時
※オーダーストップは、閉店30分前です。また、授業休止期間中は、営業していません。
- 問い合わせ
078-411-7905（甲南大学生協レストラン）

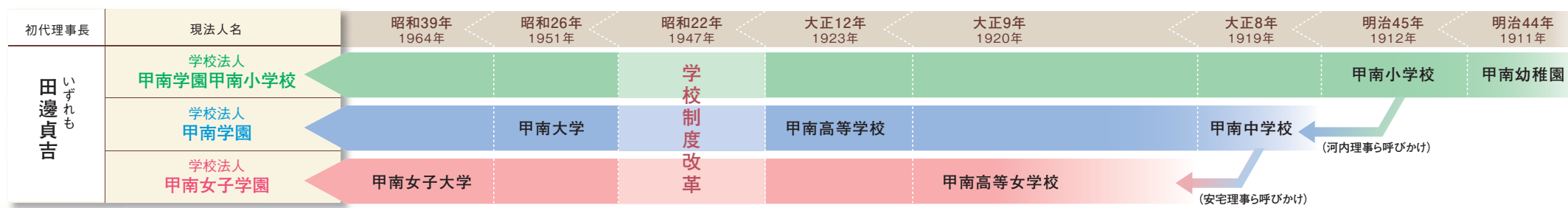
こちら
甲南特搜部
【拡大版】

「甲南大学と甲南高等学校・中学校」は同じ学校法人で、「甲南幼稚園・小学校」と「甲南女子大・高・中」は別の学校法人ですが、創立者平生汎三郎の理念を共有する学校同士です。ある意味、「兄弟姉妹」であり“親戚”のようでもあるという、非常に良好な関係を築いています。

「甲南大、甲南高・中」と「甲南小」「甲南女子」って、どのような関係なのでしょう？

甲南学園の長い歴史は、ひとつの幼稚園の創立から始まります。今回の特搜部は、一貫教育「甲南」各学校の創立の経緯と関連について調査を行いました。

構成協力：浜田邦夫さん
(甲南幼・小・中・高・大OB)



教育方針	初期理事	認可・沿革	設立準備人	設立経過	創立記念日 (開校園・開学)	現通称
少数児童に教育を徹底し、公立に望めない特色ある学校。劇(画)の詰め込み教育を排除し、人物陶冶を根本に、寛厚にして気品高尚な紳士の雛児の養成。	田邊貞吉(理事長)、小林山郷、阿部元太郎、平生汎三郎、才賀藤吉、野口孫市。(順不同) ※後日「橋本重幸、河内研太郎、中西繁松」	明治44年7月 幼稚園設立認可。 この時の趣意書に「甲南」という固有名称が文書に初登場。「六甲山の南」という意味の地域名は未だ普及しておらず、初代理事長になった田邊貞吉の排号が「甲南」だったので、それが《命名の縁》との説が有力。開園式9月10日。園児2組44人。この日を創立記念日としている。 大正元年9月 「財団法人甲南学園」認可。 同7年中学校設立計画で「財団法人甲南学園私立甲南尋常小学校」に。さらに昭和16年国民学校令を受け「財団法人甲南学園甲南初等学校」へ。戦後の23年再び「財団法人甲南学園甲南小学校」に。26年以降「学校法人甲南学園甲南小学校」。	田邊貞吉、小林山郷、静藤四郎、弘世助太郎、平生汎三郎、進藤嘉三郎、阿部元太郎、才賀藤吉。(順不同)他に生島永太郎、岸田奎、野口孫市、山口善三郎、中島保之介、久原房之助。 ※田邊貞吉は前・文部省(現文部科学省)普通学務局長、住友会総務。久原は後の政友会総裁。	明治40年頃、日本生命創立者・弘世助太郎ら住吉村在住の大阪経済人らが設立を計画。元神戸商業学校校長平生汎三郎が大阪から転居して来たので誘い、平生も生来の希望が実現する、として参加。同村反高林に創立。	明治44年(1911年)9月10日 ※小学校は明治45年4月7日	甲南幼小 (甲南幼稚園・甲南小学校)
小学校のそれを継承。理想の「1学級40人以内」の少数教育で、個性の開発、人格の陶冶を目指し、「德育・体育・知育」を掲げ、心の正しい、身体丈夫な人間育成。	田邊貞吉(理事長)、千浦友七郎、安宅彌吉、平生汎三郎、河内研太郎、四本萬二。(順不同) ※後日「伊藤忠兵衛、久原房之助」。 ※伊藤は伊藤忠商事の創業者。	大正7年12月 「財団法人甲南学園甲南中学校」 II小学校と別法人IIと、中学校の設立認可。 この時既に「高等学校を併せた7年制高校に組織変更の予定」と初の学校要覧に明記。それを考慮した校舎建築等を進めた。入学式は大正8年4月21日。2組55人。以後この日を創立記念日としている。 同12年1月7年制高等学校設立認可。 4月開校。中学校は尋常科に。「財団法人甲南学園」に。高等科1年生文科理科計51人。尋常科は1年生59人。7年制高校は全国2番目だが、同15年に卒業生を出し、これは全国初(発足1番校は尋常科でスタート)、中学校は8年だけの歴史。全卒業生80人。 昭和22年の教育制度改革で尋常科が再び中学校に、高校も23年から新制度移行。法人が「学校法人甲南学園」に。中学・高校は同38年、発祥の地、岡本から芦屋へ移転。	田邊貞吉(委員長)、河内研太郎、安宅彌吉、平生汎三郎、四本萬二、津村秀松、千浦友七郎。(順不同)他に岩井産業・岩井勝次郎ら。 ※河内、四本、千浦は海運業関係者。平生が援助した汽船購入費返礼の意で参加(山下汽船山下龜三郎も)。 ※津村は後日日立造船社長	大正7年初頭、小学校の第1回卒業生が出る春を前に、連絡進学先の中学校を設立すべきだと、当時の小学校理事・河内研太郎と平生汎三郎が田邊の賛同を得、創立事務所を小学校内に置き、1年後本山村岡本に創立。	大正8年(1919年)4月21日 ※高校は大正12年4月21日	甲南高中 (甲南高等学校・中学校)
平生の遺志と7年制高校の伝統的理念教育精神を継承発展させ、その名譽と誇りを「層高める。阪神間に於ける学術文化の一大センターとし、強固な教養教育を確立。	永井幸太郎(理事長)、阿部孝次郎、大屋晋三、岩井雄二郎、岡崎真一、静豊治郎、武田長兵衛、正井辰男、荒勝文策、岩崎孫八。(順不同) ※追放解除後「関桂三、中川路貞治、伊藤忠兵衛」。	昭和23年頃、甲南高校教員の間で設立問題の討議が始まり、理事会、同窓会等でも検討。文部省(現文部科学省)の「国立大学との併合案」をも含め、各種の案統出で賛否が分かれた末、24年の甲南学園理事会で「同法人の大学」を、2年後設立と決議、準備(設置)委員会スタート。 同26年3月 大学設置認可。 4月、文理学部で開学。入学155人(甲南高校からは35人)。経済学部認可は翌年で、1、2年生同時発足(文理学部からの転部あり)。文理経済法営の5学部制は同35年。創立直後は中高からの一貫教育の学風を、教職員、学生に深く理解させるため、大学の教授、助教授、講師31人中24人に、32年頃まで中高の教諭を兼任させる等の配慮をしたほか、初代学長にも、大正時代甲南高校教授だった荒勝文策(当時京都大学教授)を勧誘、学園創立者平生の目標遂行が揺るがない体制を整備。	永井幸太郎(委員長)、正井辰男、静豊治郎、岩崎孫八、隈部以忠、高谷博、堀見高年、正田大、吉松二郎、石井義仁、秋田成明、村尾善夫、宮田武志。他に高校生父母代表。 ※永井は日商日商岩井社長。正井静は高校卒業生代表。岩崎以下は高校教員代表。	大正8年中学校創立時、平生汎三郎は早くも大学設置構想を発表。久原房之助理事も学校裏の二楽荘提供。基金寄付を確約したが経済界の世界恐慌等で平生存命中は実現せず。戦後、新教育制度で再浮上、母体の地に創立。	昭和26年(1951年)4月21日	甲南大 (甲南大学)
「まごころの人間をつくる」「清く、優しく、正しく、強く」をモットーに「全人教育、個性尊重、自学創造」。建学の理念を基盤に、品格と国際性を備え社会に貢献する高い志をもつ女性を育成する。	田邊貞吉(理事長)、安宅彌吉、千浦友七郎、不破榮次郎、真野愛三郎。(順不同) ※後日「岸田奎、芝川栄助」。 ※岸田は相互銀行頭取。 注：3法人理事は以来、数人が交互に兼任	大正9年1月学校認可。 4月甲南幼稚園を借りて開校。1年生35人。校長も2年間甲南中学小森校長が兼任。 同10年3月 「財団法人甲南学園甲南高等女学校」認可。 同11月、甲南中学校の南本山村田中に校舎完成。27日落成式。この日が創立記念日。昭和17年、専攻科増設。同20年、米軍空襲で校舎焼失。同年度卒業式は甲南高校講堂で。 同22年、学制改革で「甲南女子高等学校・中学校」。 同26年「学校法人甲南女子学園」に。 同30年 甲南女子短期大学設置。 家政科、後に国語科も。 同38年12月甲南女子大学認可。 同39年4月、国文、英文学科で現・森北町に開学(開学式は11月)。入学者182人。 同43年、中学・高校も同町に移転。	田邊貞吉(理事長)、安宅彌吉、千浦友七郎、不破榮次郎、平生汎三郎、真野愛三郎、岩井勝次郎、久原房之助、伊藤忠兵衛。(順不同) ※千浦は海運協会長、真野は東洋紡重役、不破は大阪丸米商會重役。 ※安宅は安宅産業創設者で後の大阪商議所会長、貴族院議員。	大正7年男子の中学校設立準備人らが「男子同様の女子校設置」を、久原房之助も「女学校付設」を提唱。平生汎三郎は彼等に女子校問題を任し、醵金だけで協力。大阪神戸の財界有力者の援助で創立。	大正9年(1920年)11月27日 ※大学は昭和39年4月開学式は同11月10日	甲南女子 (甲南女子大学・甲南女子高等学校・中学校)

(文中の名前はすべて敬称略) ◎参考文献「甲南学園50年史」(昭和45年発行)、「甲南女子学園創立50周年記念誌」(昭和47年発行)、「甲南小学校創立70周年記念誌」ははたけ甲南(昭和56年発行)など

オール甲南の集い 2009

どなたでもお越しいただけます！（卒業生・在学生・ご父母以外の方でも結構です）

甲南ファミリーのあなたとつくる、年に一度の大同窓会

卒業生、在校生、父母の皆さま、またそのご家族まで、甲南ファミリーが集まり、仲間や先生との再会、現役各クラブのパフォーマンスなどを楽しむ毎年恒例の「オール甲南の集い」を5月24日（日）に開催します。幅広い年齢層の方に楽しんでいただけるよう、たくさんプログラムも用意していますので、ご家族ご友人とお誘い合わせてご参加いただき、甲南の絆を深めてください。

風船プレゼント・賞品が当たるスタンプラリーなどもご準備しております！ ※内容は若干変更する可能性があります。 ※駐車場はございません。電車・バスをご利用ください。

柿木道子氏（甲南大学文学部1963年卒）講演会 「くいだおれ女将のしなやかなド根性」

●12:00～13:30



テレビ等で大活躍のくいだおれ女将柿木道子氏が甲南大学へ里帰り！ほかでは絶対聞けない甲南の思い出などが満載！あのくいだおれ太郎さんも甲南大学へ一日体験入学！一緒にお写真を撮っていただけます。



お祭り広場 無料

●12:00～16:00

射的、バルーンアートなど
でお楽しみください。

工作教室 無料

花のかんむり教室

スワロフスキーアクセサリ教室

竹とんぼ・ペーゴマ工作教室

●13:00～16:00（入替制）



記念写真撮影 コーナー 無料

●13:00～16:00

大学校舎をバックに、プロのカメラマンが記念写真をお撮りします。

模擬店・物産展

●12:00～16:00

毎年ご好評いただいている模擬店。卒業生が経営する企業・商店などの物産や軽食、ビール、綿菓子、スナック類などをお得な価格でご提供！

コンサート「オール甲南夢舞台」無料

●14:00～16:30

出演：山中裕平（ヴァイオリン）・吉田景子（ピアノ）、グリーンクラブ、女声合唱団アモローゾ、吹奏楽部、チアリーディング部、中高ブラスアンサンブル



甲南の歴史を 振り返る写真展

●終日

「クラブ・ゼミ・EBA」OB会

●14:00～16:30

思い出のキャンパスで懐かしいご友人たちと楽しいひとときをお過ごしください。

ミニサッカー大会 無料

●9:30～16:00

毎年大人気親子でフットサル！
飛び入り参加も大歓迎です！！

甲南大学卒業生 教職員の集い

●11:00～13:00

現在小学・中学・高校で教鞭を振るう卒業生が集合。

●問い合わせ先 甲南学園広報部 TEL.078-435-2628

この「甲南Today」の読者だけの 特典をご用意しております。

甲南Today 読者限定の 特典チケット

このチケットを甲南大学正門受付にてお渡しください。特典引替券と交換させていただきます。



創立90周年の甲南学園。建学精神は受け継がれてはいますが、段々薄れていく雰囲気があり、今一度自覚を強めたい課題の一つです。特に大学は58年前の開学時、《7年制甲南高校が培った伝統と名譽、誇りを引き継ぎ、一層高める》が目標でしたから、めざす行動をより強め、努力を重ねることが望まれます。開学時、その教育理念引き継ぎを掲げて就任、長期に亘って実践した初代学長の紹介です。

歴史と文化 をつくった人々

大学に《平生教育精神》を引き継いだ貢献者

初代学長（昭和26年4月～43年12月）

荒勝 文策氏

明治23年3月25日生まれ。昭和48年6月没。京都大学卒。甲南高等学校教授の後、台北帝大を経て、京都大学教授。

昭和25年、学園が創立者・平生鈞三郎先生の遺志だった『大学設立』を決めた時に、理事会が真っ先に学長候補に挙げて要請したのが当時京都大学で原子核物理学の研究に没頭していた荒勝教授です。

学園創立直後の大正末に4年間、甲南高校で教鞭を取った荒勝教授なら甲南の教育理念を十分理解している…が理事会の一致した考え。荒勝教授も「人物育成と個性尊重の教育という平生先生の、そして甲南独自の、教育理念達成を目指し、小型のケンブリッジ大学にしたいのなら…」と受け、ご本人は「第二の人生が来たという意識と大きな責任を感じた」と語りました。

その構想は、甲南高校の施設、教授陣容を活かして強固な教養教育を確立し、将来どんな種類の学部が設置されても、総合教育の理念を達成し得る組織、運営方法で、当時般に見られた区画教育の弊害に陥らない有機的な総合大学にしたい、が念願でした。

特に文化、技術に関する理論と実践で、社会に奉仕する人材の養成を目的にしたいと『大学設置認可申請書』に明記しました。これはケンブリッジ大学の創立精神、「教養を身につけ、英国の騎士道を学ぶ」と同じ趣旨。甲南がここで《人物》とせず、あえて《人材》としたのは、《能力とか、働きのある人》という意味だったと言われ、「甲南大学の、生き方の特色に触れた」と述べています。また学生募集要項にも、「学生は各人の素

質と興味に応じ、各学術分野で自由に履修し、個性豊かな自己を育成し得る組織がある」と書きました。
一方学園関係者には大学は学園の継承事業だが、ある意味では新しい《事業》であることを忘れてはならない。常に創造前進を心掛けよう、と呼びかけました。

様々な大学建設案の中からこのように平生精神と荒勝学長個人の意思実現に沿った内容の大学建学が、まず文理学部単独でスタートし、2年目に経済学部増設、さらに文理学部の文理両学部への分離、法学、経営両学部増設、さらに大学院の開設まで、荒勝学長一代、開学後13年間でほぼ現在の姿にまで、成長させた

甲南大学設置の経過

構想は甲南中学生が初めて誕生した学園創立直後。地元に住む大物財界人で、後に政界入りした久原房之助氏が、平生先生に「土地と費用10万円を提供するから構想を進めたら…」と進言。平生先生の宿望でもあり、理事会は賛成したが、昭和2年の経済大恐慌で久原氏の事業が傾き、学園自体の将来も一時危ぶまれる情勢となって立ち消えになった。

構想再燃は第二次世界大戦後の学校教育法改正で中学、高校が《新制》に移行した時。平生先生は既に他界していたが学園は今後の理想的な姿を求め、「可能なら大学設置」が出され、先ず同窓会の検討会に高校自治委員が加わって「独自の大学か、官立大学との併合か」を議論した結果、《独自の大学》を決議、理事会もそれを認めて行動開始。

この時先頭に立ったのが当時、学園初の同窓生理事・正辰辰男氏（甲南高校第1回卒）。各地大学や文部科学省（当時文部省）等で調査、学長人選も急ぎ、同理事が第一候補に挙げたのは、岡山大学や兵庫県立大学から学長、総長として勧誘されていた荒勝氏。悩んだ荒勝氏が最後に選んだのが《昔の教え子》の懇請受諾だった。

《独自の大学か、官立大学との併合か》の議論がなぜ出たのか。既に旧制高校の消滅が決まっていた当時、第三高校は京都大学に、浪速高校は大阪大学に吸収されることが内定し、甲南も姫路高校と共に神戸大学か、独自に大阪大学に…が、世間の情勢だった。しかしこの意見に賛成だったのは主に他の中学から甲南高校に編入し、在学年数が浅い生徒達で、全校生の三分の一弱。「国費で運営される大学だから内容も充実する」が根拠。

一方の独自派は、尋常科から進学した純粋の「甲南っ子」。「建学精神に基づき、名門甲南の名を絶対に残すべきだ」の《愛校心》。教職員の中にも官立との併合を主張する人があったが、大多数は《甲南の歴史を尊重し、私学として存続させよう》。理事、評議員（当時の校長諮問機関）も賛成。そのお陰で現在の《甲南》中高、大学が存在する。

のです。このような優れた企画と指導力によって、大学の基礎は確立され、学園の創立精神を、新しい姿の中に再現させた功績は偉大です。現在も教職員、学生がその恩恵に浴しているのです。
当時の学園・大学の学則には学長の任期などの規定が未だ整備されていませんでしたが、荒勝学長は80歳を目前にした昭和40年頃から健康を害し、学園は時学長代理を置くなどしましたが、43年になって辞意が認められ、名誉学長になられたのです。
その後40年。建学当初の甲南をもう一度振り返りながら、平生、荒勝両先生の思いを噛みしめたものです。

今回も浜田邦夫さん（1953年甲南高等学校、1957年甲南大学経済学部卒）の協力です。

「甲南Today」の読者の方からお寄せいただくご意見には、「学生の様子が分かる記事が読みたい」という内容のものがたくさんあります。今回は、それらのご意見を受けて、学園の近況をピックアップする当コーナーで学生の手による活動レポートをご紹介します。

個性を育てるということ ～メディア研究会活動レポート～

キャリアセンター主催のメディア人養成セミナー「甲南ロード」(詳しい情報は「甲南Today」NO.317～8ページ、NO.329～10ページを)ご覧ください)を受講し、刺激を受けた学生たちが自ら立ち上げたサークル「甲南大学メディア研究会」。学生が、自主的に情報を発信する側となることをめざして設立した当研究会のメンバーである福田晃大さんにその活動をレポートしていただきました。

●はじめに

一月八日、京都劇場にて劇団四季の社会風刺劇「解つたまるか」を鑑賞し、主演男優である加藤敬二氏に学ぶ貴重な機会をいただきました。この企画を主催したのは、甲南大学メディア研究会のメンバーを中心とした学生団体K.nationです。

当日は、甲南大学からの7名を含む30名近い学生が集まりました。四季のトップダンサーであり、かの有名なミュージカル「キャッツ」の振り付けも担当する加藤氏との交流を通じて、それぞれがこれから社会に出て行くにあたっての心構えを考える機会となりました。

K.nationとは？

K.nationとは、複数の大学からマスコミ業界をめざす学生が集まってできた団体です。企業等のご協力・ご指導を仰ぎながら、主としてマスコミ関連のさまざまなイベントの企画立案・運営を行い、その経験を通じて主体性や社会性を養うことを目的として活動しています。

●加藤氏、その「衝撃・葛藤・挑戦」

加藤氏は、18歳からマジックとダンスを融合させたショーをプロとして行い、生計を立てていらっしゃいました。そんな加藤氏に、人生の転機が訪れます。ブロードウェイでミュージカ

ル「キャッツ」を鑑賞したときのこと。それまでバックダンサーなど、脇役であったダンサーが舞台の「主役」となるミュージカル。加藤氏は、その瞬間、自分の領域が広がる可能性を感じたそうです。

ミュージカルというさらなる挑戦のフィールドを見つけた加藤氏は、すぐに四季のオーディションを受け、見事合格しました。しかし、ダンサーとして一流である加藤氏も、歌と演技においては全くの初心者。すぐに壁にぶつかることになったのです。しかも、当時ダンサーとしての仕事も続けられていた加藤氏は、両方が中途半端になってしまうことに悩まれました。しかし、葛藤の末、それまでのプロダンサーとしての安定した生活と実績を捨て、あえて苦しい道を選びました。四季での特訓を積み重ねた結果、初めての公演で、観客から高い評価を得たことで劇団からも認められたそうです。

●「個性に対する考え」 加藤氏×学生

加藤氏の挑戦は、四季で確固たる地位を築いた現在も続いています。ミュージカルの稽古の合間を縫って競技用自転車BMXの練習をするなど、精力的です。加藤氏のお話の中で特に印象に残っているのは、「好きなことも嫌いなことも、人の3倍しなさい」という言葉です。これは、何事もやる前から「向いていない」と切り捨てることはせず、突き詰めてやるべきであり、そうすることで初めてまだ自分でも気付いていない自身の適性がわかるというメッセージだと私は受け取ったのです。

この日、会場には様々な学生が集まっていたましたが、大学卒業という人生のターニングポイントを目前に抱く不安は同じはずです。学生たちは、人間的魅力にあふれる加藤氏のお話に、時間を忘れて聞き入っていました。各々「個性」を生かして精一杯生きることの素晴らしさ」を加藤氏から学び取ったに違いはないはずです。

●改めて感じた「甲南大学の理念」

加藤氏のお話は、「個性を育てる」という甲南大学の理念に通じるものがあると私は感じました。甲南大学には、

得たことの方が自分たちにとって大きいような気がします。

●今後の目標

私たちは、留学している一人ひとりが、日本を代表する外交官であると思います。なぜなら、外国の人は、日本人の行動を見て、日本を感じるはずだからです。今後も日本のすばらしい面を世界に伝え、外国人の方々に日本に対する興味を持ってもらいたいと考えています。

今回の経験がきつと今後の人生にとって意味あるものだと確信し、目標を達成できたことに自信を持ち、そして日本を誇りに思える気持ちを忘れません。

実はこのコンテストをきっかけに、パフォーマンスの依頼をいくついただいたっており、全員意気込んでいます。みんながひとまわり成長した姿で日本に帰れますように。



JSAメンバー
劉 博陽・藤山 晋太郎・森田 洋平・岡野 淳志・船山 優太・西山 耕平・田中 佐知・大槻 香奈・谷口 皇華(すべてEBA総合コース3年次)
Report: 岡野 淳志(経済学部)・船山 優太(経営学部)

ユニクロの ニューヨークセミナーに参加

2009年2月7日からの3泊5日、(株)ユニクロの海外インターンシップ「ニューヨーク(以下NY)セミナー」に参加しました。現地では、NY店の視察やデザインスタジオ見学をさせていただきました。また、参加者10名を3チームに分け、現地のマーケティングをリサーチし、「世界のグローバル企業になるための課題と戦略」をテーマとして課題に取り組みました。大学も専攻も出身も違う初対面のメンバーとNYの5番街、SOHOエリアの服屋をまわり、寝る間も惜しんで意見を交わすなど、充実した時間を過ごすことができ、良い仲間にも出会えました。このセミナーに参加するためには、3度に渡る選考をクリアしなければなりません。

●選考①「エントリーシート」

まず、「ユニクロが世界になるための課題とそれに対する戦略」をテーマとして、エントリーシートを提出しました。インターネットで情報収集をしたり本を読んだりして企業研究をし、EBA総合コースで学んだ知識や経験などを生かし、戦

その理念を実践して学生の自主的な活動をバックアップしてくれる先生・職員方がいらっしゃいます。それは私が学生団体やサークル活動をするうえでも感じたことですが、他大学の学生の間でも甲南大学のそのような校風は羨ましがられます。私自身の個性も、甲南大学によって醸成された部分が大きいと思います。

●おわりに 「壁を乗り越え、夢をつかむ」

今回の企画の運営および学生の動員には、甲南大学の学生が主体的な役割を果たしました。この活動の中で、甲南大学の理念、そして自ら動くことを学んだわれわれメディア研究会のメンバーは、現在「大学紹介DVD」の制作を通して、これから入学してくる後輩たちにメッセージを残せないかと話し合っています。

企画を実現させるには、いくつもの課題をクリアしなければなりません。社会に出るとも多くの、そしてさらに大きな壁にぶつかるでしょう。しかし、改めて強く胸に刻まれた甲南大学での学びを通して、それらの壁を力強く乗り越えていく。挑戦し、個を伸ばしていく。そうすれば、私たちも「夢」を実現できるに違いなく信じています。



福田晃大(ふくだあきひろ)
法学部4年次

「インターナショナルフィエスタ」優勝！ ダンスで伝える「大和魂」！

甲南大学EBA総合コースの学生は、約1年間「ニューヨーク州立バッファロー校に留学します。今回、同校へ留学中の学生たちが、出身国毎のチームで競うダンスコンテスト「インターナショナルフィエスタ2009」に参加し、見事1位の座に輝きました。メンバーの1人、船山優太さんにその様子をアメリカから伝えていただきました。

今回私たちは「インターナショナルフィエスタ2009」に参加し、全9カ国のSA(Student Association、学生会)の中から1位に選ばれました。このコンテストは、各

略を考えました。何回も書き直しました。私が提案したのは、「海外展開と顧客増のためのWEB戦略」。本や新聞に書かれている課題だけに目をとらわれるのではなく、自分の視点で考え抜いた課題と戦略にたどり着いた結果、エントリーシートが通過することができました。

●選考②「グループワーク」

SA(Specialty store retailer of Private label Apparel)体感セミナーに参加しました。ゲーム感覚で店舗経営を体験し、全国から集まる学生でチームを組み、グループワークを行います。この経験を通じて、より現実的にユニクロの事業内容を理解することができました。

●選考③「プレゼンテーション」

最終試験として、もう一度初めにエントリーシートで課題となったテーマを考えます。自分の考えた戦略についてプレゼンテーションをし、結果的に10人の学生が選ばれ、その1名となることができました。

●一生懸命生きて「カッコいい」！今回学んだこと」

NYで見たユニクロは、「超合理的」に築かれた店舗、そして、その裏には社員さんたちの果てしない努力がありました。社員の方全員が統一して持っていたものは「熱い思い、行動力、挑戦心」でした。本気で世界NO.1になるためには、なんとしてもNYで成功しなければならぬ。100%は当たり前前、常に120%以上でいることが必要不可欠。高い志を持ったNY店は多くのお客様で溢れていました。

NYセミナーに参加したことで本当に多くのことを学びました。日本のパレル企業の世界進出の可能性、社会人の方、参加した仲間の熱い思い。この経験を通じて就職活動に対する考え方も変わり、本気で自分の夢を考え出しました。何かに真剣に取り組むことの充実感と達成感、多くの人の意見を聞くことでわかる新しい価値観、目標や夢を現実にするための努力、世界水準の考え方。何より「一生懸命生きている人はカッコいい！」このような素晴らしい機会を与えてくれたユニクロ、そして仲間たち、そして、今の私に育ててくれた甲南大学EBAに心から感謝しています。私の人生になくてはならないNYセミナーとなりました。



藤田みどり
経営学部 EBA総合コース4年次

公認会計士試験に合格！

会計大学院に在学中の森本泰輔さん、同大学院を修了した浅原由美子さん、加藤毅さん、小山佳恵さんが2008年度公認会計士試験に見事合格しました！

気象予報士試験に合格！

山上和浩さん（理工4年次）が平成20年度気象予報士試験に合格されました。幼いころからなぜか天気予報に興味があり、テレビの天気予報は録画までされていたとか。試験勉強にはサイバーライブラリの資格試験勉強室を利用。「サイバーライブラリは環境抜群です！将来は気象キャスターになりたいですね。めざすならとことんです！」山上さんおめでとうございませう！

経営学部の学生が 尼崎の商店街活性化策を 提案！

経営学部西村順二ゼミの2年次生たちが、3月31日、尼崎市内の商店街における空き店舗対策や集客率向上等活性化策について商店主の方々と考える協同研究合同発表会に参加し、4月1日付け神戸新聞に取り上げられました。甲南大生が提案したのは、「地域資源を活用した街づくり」で、まちづくり会社TMO尼崎の伊良原事務局長から「斬新な

視点」と評価をいただきました。



平成21年度入学宣誓式を 挙行しました

4月1日、2009年度入学宣誓式が執り行われ、学部生2322名、大学院（修士）83名、大学院（博士）9名、法科大学院49名、会計大学院29名が入学しました。

新入生のみなさま、ご入学おめでとうございます！

甲南高等学校同窓会総会

テーマ「もう一度振り返ろう高校時代」

【日時】2009年5月30日（土）18時開演

【場所】神戸ベイシエラトンホテル& Towers

【会費】5,000円（大学・院生2,000円、ご家族5,000円）

【内容】◆平成21年度総会（オーシャンの間）◆記念演奏会（バイオリン：山中裕平氏、ピアノ：吉田景子氏／曲目：貴志康など）◆懇親会（六甲の間）

「宮本恒靖氏講演会」 （父母の会主催）を開催！

ウィッセル神戸キャプテン宮本恒靖氏をお招きして、甲友会館で講演会を開催いたします。当講演会は、現役学生のご父母のみが対象となります。

【日時】6月18日（木）15時

【場所】甲南大学甲友会館

【問合せ】0784352610

（父母の会、火・木9時～17時のみ）

親子で教わる「観る・楽しむ バレーボールフェスティバル 開催！」

関西1部リーグに所属する本学バレーボール部がバレーボールの技術と魅力をお教えします！また、9人制女子実業団バレーボールの一流チームによる特別試合を観戦していただけます。日本の最高峰ブレイをどうぞお楽しみください！

【主催】甲南大学体育会バレーボール部、バレーボールフェスティバル実行委員会

【日時】6月21日（日）12時

【場所】甲南大学講堂兼体育館（先着100名さま限定）

【内容】◆たのしいバレーボール教室（子どもさんから大人の方まで）◆日本トップチームによる特別試合◆抽選によりプレゼントを進呈
【問合せ】TEL・FAX：0722937339
担当：濱頭辰治はまがしらたじ
各コースの詳細は、<http://www.konan-u.ac.jp/>をご覧ください。

● 体育会戦績報告 ●

（敬称略）

「ゴルフ部」

関西マツチプレー選手権

（於：奈良万葉ゴルフクラブ）

● 12 / 1（月）～ 4（水）

奥田英也（経営3）が第2位に入賞しました。

「アメリカンフットボール部」

ウエスタンボウル

（於：広島・広島広域公園第二球技場）

● 12 / 14（日）

関西学生代表校の甲南大学と、平和台ボウルの勝者である広島大学が対戦。結果は40対0で甲南大学RED G A N Gが勝利しました。この試合で、橋田恒彰（経済4）が最優秀選手に、永井佑樹（経営1）が優秀選手に選出されました。

「硬式庭球部」

平成20年度

北信越学生室内選手権大会

（於：藤波運動公園WAVEのこ）

● 12 / 12（金）～ 14（日）

篠原直貴（経済1）がシングルスにおいてベスト4、ダブルス（パートナーは他校の学生）において優勝しました。

関西学生新進「ニストーナメント」
（於：大阪・万博テニアカデミー）

● 3 / 15（日）

女子シングルス決勝戦において、安部千尋文2が関西学院大学の菅村選手と対戦し、優勝しました。

「クルージング部」

A N I O R U S C u p 2 0 0 9

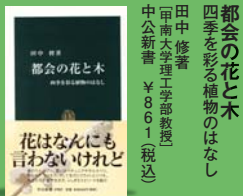
（於：新西宮ヨットハーバー）

● 3 / 6（金）～ 3 / 11（水）

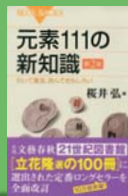
クルージング部が総合優勝を果たしました。

甲南大学の教員と卒業生が執筆した

新刊レビュー



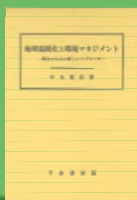
都会の花と木
四季を彩る植物のはなし
田中修著
甲南大学理工学部教授
中公新書 ￥861（税込）



元素111の新知識
立花隆著
甲南大学理工学部教授
講談社 ￥1260（税込）



政治と宗教のはざま
高野清弘著
甲南大学法学部教授
行路社 ￥2100（税込）



地球温暖化と環境マネジメント
解決のための新しいアプローチ
中丸寛信著
甲南大学経営学部教授
千倉書房 ￥2940（税込）



公法入門
小泉洋一・島田茂編
執筆：ともに甲南大学法学部教授
中井伊都子執筆（同教授）
櫻井智章・岡森龍晃執筆（同准教授）
法律文化社 ￥1890（税込）



TOEIC Test
5日間でカンをつかむ！
吉田佳代共著
甲南大学国際言語文化センター講師
三修社 ￥1995（税込）



Power Charge for the TOEIC Test
吉田佳代共著
甲南大学国際言語文化センター講師
金星堂 ￥2047（税込）



続・岡山の作物文化誌
臼井英治著
元甲南大学教職教育センター教授
日本文芸出版 ￥903（税込）



時計の影
中井久夫著
1952年甲南高等学校卒
みすず書房 ￥3150（税込）



絆・考動そして感謝
お隣様で生かされてきました
萬谷久行著
1955年甲南高等学校卒
甲南大学経営学部卒
福田印刷工業 非売品



トコトコやでい! 機能めっきの本
今日からモノ知りシリーズ
松村宗順共著
1969年甲南大学理学部卒
1972年甲南大学自然学研究所
日刊工業新聞社 ￥1470（税込）



細道の情景
溝淵冬嗣著
1977年甲南大学文学部卒
文芸社 ￥1260（税込）



ぼんぼらみん
藤川智子著
1985年甲南大学文学部卒
岩崎書店 ￥1365（税込）

5名様

アンケートPRESENT

甲南大学オリジナルラガールカード （スルツとKANSAI対応）

甲南大学オリジナルラガールカード（スルツとKANSAI対応）を5名様にプレゼントいたします。ご希望の方は、同封のアンケートハガキにてお申し込みください。

応募締切 2009年6月10日到着分まで



次号は2009年9月発行予定

甲南Today^{NO.33}

発行日／2009年5月1日
発行／甲南学園広報部
〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1
TEL (078) 431-4341（代）
印刷／大日本印刷株式会社